

青果物の物流・流通に関連したセミナー
(千葉県成田市管内)

資料



【日時】 令和4年10月13日(木) 12:30～16:45

【場所】 成田市文化芸術センター/なごみの米屋 スカイトウンホール

【主催】 野菜流通カッター協議会〔事務局:(一社)日本施設園芸協会〕

青果物の物流・流通に関連したセミナー
(千葉県成田市管内)

資料目次

頁

- | | | |
|-----|---|--------|
| 1. | 青果物の物流・流通に関連したセミナー開催要領(千葉県成田市管内)..... | P1~2 |
| 2. | 現地視察 【13:00 ~ 13:50】 | P3~4 |
| 3. | セミナー 【14:20 ~ 16:45】 | |
| (1) | テーマ:『新生成田市場の概要について』.....(30分) | P5~12 |
| | 成田市経済部 卸売市場長 河野 雅祐 氏
シティ青果成田市場株式会社 代表取締役社長 小谷 洋二 氏 | |
| (2) | テーマ:『保税蔵置場を備えた新生成田市場での生鮮貨物取扱いについて』.....(20分) | P13~18 |
| | NAX JAPAN株式会社 専務取締役 竹井 浩人 氏 | |
| (3) | テーマ:『トマト、パプリカにおける産地戦略について ~国産・輸入取組報告~』..(20分) | P19~32 |
| | 流通食料株式会社 加工開発本部 農産食品部 生鮮水煮グループリーダー 齋藤 健 氏 | |
| (4) | テーマ:『生鮮品物流システム “Fresh Logi” を用いた青果物の鮮度保持輸送』... (20分) | P33~46 |
| | 旭化成株式会社 食農プロジェクトチーム プロジェクト長 上山 健治 氏 | |
| (5) | テーマ:『青果物の輸出をめぐる情勢について』.....(20分) | P47~62 |
| | 農林水産省 農産局 園芸作物課 園芸流通加工対策室 課長補佐 三國 知 氏 | |
| (6) | 質疑応答 《 メ モ 》.....(30分) | P63~66 |
| | 司会進行 流通合理化検討委員会委員長(石川県立大学 教授) 小林 茂典 氏 | |



新生成田市場



『現地視察』

新生成田市場



【メモ】

『現地視察』

新生成田市場



【メ モ】

令和 4年度 水田農業高収益作物導入推進事業(全国推進)
先進的な物流機能を持つ市場視察と青果物の物流・流通に関連したセミナー開催要領

1 趣 旨:

野菜流通カット協議会が受託した水田農業高収益作物導入推進事業の先進的な出荷技術の普及に向けた取組を推進する上で物流機能の一層の活用による効率的な流通改善が求められています。

そこで今回の視察先となる新生成田市場は、令和4年1月20日に開場、敷地面積は約9.3ヘクタール(東京ドーム2個分)、成田空港に隣接しています。農水産物の加工や海外への輸出に必要な手続きを市場内で完結することができる「ワンストップ輸出拠点機能」を備えた日本初の卸売市場であり、物流拠点として、より簡単に、より新鮮な農水産物を輸出することができます。

なお、新生成田市場には、水産・青果・高機能物流棟があり、従来の開放型施設から衛生管理が徹底された閉鎖型施設となっています。

併せて、物流機能の一層の活用による、効率的かつ安定的な流通の基本的な知識を得ると共に、加工・業務用野菜の新たな流通方式を普及・啓発するため、産地や実需者に対する物流・流通に関する情報提供等を行うセミナーを開催します。

2 日 時:令和 4年 10月 13日(木) 12:30 ~ 16:45

3 場 所: ① 現地視察先:新生成田市場(千葉県成田市天神峰 80-1)

② セミナー会場:成田市文化芸術センター/3階 なごみの米屋 スカイタウンホール
(千葉県成田市花崎町 828-11)
※JR成田駅東口徒歩1分、京成成田駅西口徒歩2分

4 主催者:野菜流通カット協議会(補助事業の実施主体)

5 参集範囲:

- ①関東地区加工・業務用野菜関係者(農業生産法人等生産者、JA関係者、研究・行政関係者等)
- ②加工・業務用野菜取扱い中間事業者・実需者・物流・流通業者等
- ③野菜流通カット協議会、青果物選果予冷施設協議会の会員等
- ④農林水産省(含む、関東農政局)
- ⑤その他(全国の加工・業務用野菜関係者、JA関係者、研究・行政関係者 等)

6 お申込期限:令和 4年 9月 26日(月)

※参加申込定員 100名 になり次第、申込締切りとさせていただきますので、ご了承ください。

7 集合場所及び集合時刻:

JR成田駅東口(京成成田駅西口)ロータリー 12:20迄に集合【受付:12:00~12:20】

※借上げバス出発12:30分

※JR成田駅東口 ~ 京成成田駅西口 110m(徒歩2分)

※参加者へは、参加受付証発行の際、集合場所の地図をお付けします。

8 開催内容とスケジュール(以下、時間はおおよその目安)

【現地視察】

13:00 ~ 13:50 新生成田市場の施設見学/質疑応答(※概ね 45 分程度)

※借上げバス移動(約 25 分/10km)

14:20 ~ 16:45 セミナー

- ①テーマ:『新生成田市場の概要について』.....(30 分)
成田市経済部 卸売市場長 河野 雅祐 氏
シティ青果成田市場株式会社 代表取締役社長 小谷 洋二 氏
- ②テーマ:『保税蔵置場を備えた新生成田市場での生鮮貨物取扱いについて』.....(20 分)
NAX JAPAN株式会社 専務取締役 竹井 浩人 氏
- ③テーマ:『トマト、パプリカにおける産地戦略について ~国産・輸入取組報告~』.....(20 分)
豊通食料株式会社 加工開発本部 農産食品部 生鮮水煮グループリーダー 齋藤 健 氏
- ④テーマ:『生鮮品物流システム Fresh Logi を用いた青果物の鮮度保持輸送』.....(20 分)
旭化成株式会社 食農プロジェクトチーム プロジェクト長 上山 健治 氏
- ⑤テーマ:『青果物の輸出をめぐる情勢について』.....(20 分)
農林水産省 農産局 園芸作物課 園芸流通加工対策室 課長補佐 三國 知 氏
- ⑥質疑応答.....(30 分)
司会進行 流通合理化検討委員会委員長(石川県立大学 教授) 小林 茂典 氏

— 以上 —



新生成田市場の概要について



成田市経済部卸売市場

1



2

[新生成田市場] 5つの柱



3

POINT 1 “ワンストップ輸出エリア”

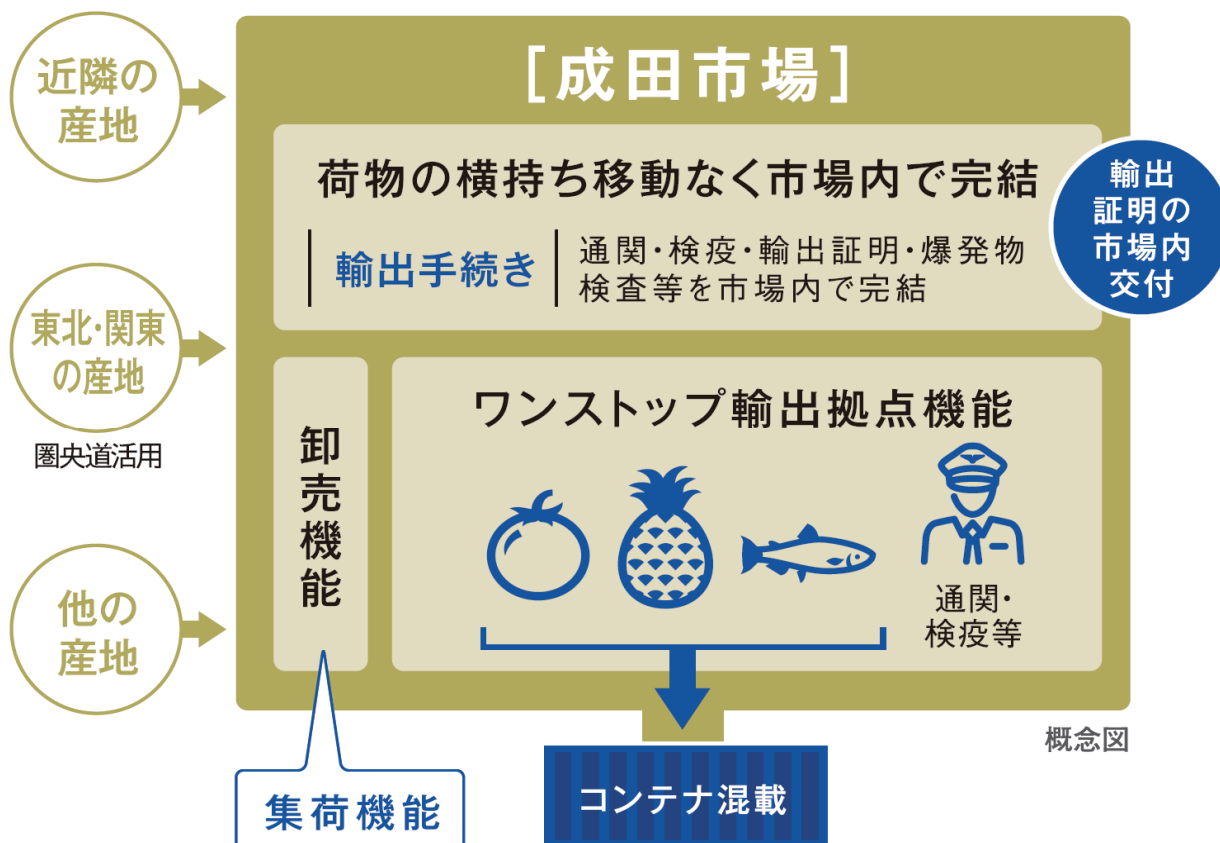
煩雑な輸出手続きを市場内で完結！
より簡単に、より新鮮な状態で世界各国へ輸出



各輸出証明書の交付の他、検疫や通関、爆発物検査など、輸出に必要な手続きを市場内で完結できる日本初の仕組みを実現。これにより、今まで4～6日ほどかかっていた輸出手続きを3日間程度に短縮。

※仕向地により異なります。

4



5

POINT 2 “加工エリア”

集荷した荷を市場内で加工

全国の産地から集めた生鮮食料品の加工やパッキングを行うエリアを整備。水産棟・青果棟からのスムーズな動線を確認。

POINT 3 “冷蔵冷凍庫エリア”

長時間の停電発生時でも運転可能な冷蔵冷凍庫を整備

10～0℃、-20～-30℃、-60℃の3温度帯の冷蔵冷凍庫を整備。令和元年の台風15号での大停電を受け、災害等による長時間停電発生時でも3日間運転可能な非常用発電設備を整備。

6

POINT
4

“活魚水槽エリア”

新市場の新たな強み、活魚水槽エリアを整備

水産棟卸売場に活魚水槽エリアを整備。国内だけでなく、世界のマーケットを対象に、成田市場の新たな強みとなる「活きの良い魚」を売り込むことで、新たな販路拡大を期待。



7

シティ青果成田市場株式会社の 概要と取り組み

シティ青果成田市場株式会社

会社の概要

- ・ 設立 令和4年1月1日
- ・ 資本金 4,800万円
- ・ 業務内容 青果物大卸
- ・ 売上高 15億円（令和4年度計画）
- ・ 社員数 12名 パート6名
- ・ 株主構成 東京中央青果株式会社 100%
- ・ 主なグループ企業（青果関係）
（株）神明、東京シティ青果（株）、東果大阪（株）
岡山大同（株）、（株）雪国まいたけ、
名水美人ファクトリー（株）

私たちが進めていく三つの使命

- ・日本の玄関口である成田国際空港を抱えるこの地域へ、安心・安全な青果物を安定的に供給していく使命
- ・日本でも有数の青果物生産地である北総地域の生産者にとって、安心して出荷できる市場であるとともに、有利販売を可能にする情報提供や販売サポートを行う使命
- ・日本で唯一の輸出対応施設を有する市場として、隣接する成田国際空港を活用した世界各地への輸出拡大を進める使命

輸出への現在までの取り組み状況

- ・輸出実績
輸出向け販売は6月より始まり金額ベースでは
6月600万、7月700万、8月2,200万、9月3,300万
と徐々に増えてきている。
- ・輸出品目は現在まで果実中心で
ぶどう、もも、メロンが主力品目となっている。
- ・輸出先は現在まで香港、台湾、シンガポール、タイ、ドバイとなっている。
- ・輸出向け業者は現在のところ12社と商談を進めてきており、新規問合わせも増えてきている
- ・物流情勢が厳しい中、豊洲市場と成田市場の定期便を構築し少量多品目の対応を可能にしている

今後の輸出への取り組み

- ・ 輸出希望産地と輸出希望業者のマッチング業務を積極的に進めていく
- ・ 成田市、成田市場輸出促進協議会と連携して見本市や商談会への参画による市場認知度の向上
- ・ 空港隣接地と輸出対応市場施設の効率的な運用により、商品管理・梱包等付帯業務も含めたローコスト輸出業務の実現を進めていく
- ・ 施設を活用して生鮮青果物だけではなく加工青果物の輸出事業の取り組みも進めていく
- ・ 輸出業者からの要望商品については、グループ会社である東京シティ青果との連携を主体に商品調達を進めていく

最後に

シティ青果成田市場株式会社は今後とも神明グループの総合力と成田市場の施設を活用して地域の青果物販売と輸出事業のさらなる発展を目指して頑張っまいますので、皆様方のご指導・ご協力を引き続きお願い申し上げます。

ありがとうございました

保税蔵置場を備えた新生成田市場での 生鮮貨物取扱いについて

NAX JAPAN 竹井 浩人 2022年10月13日

会社案内



設立以来、生鮮貨物や航空機部品など、タイムクリティカルな貨物の輸送を強みとし、スピード感を持った輸送サービスを提供しております。



1998年7月
NAX JAPAN
設立



スピード
輸送サービス

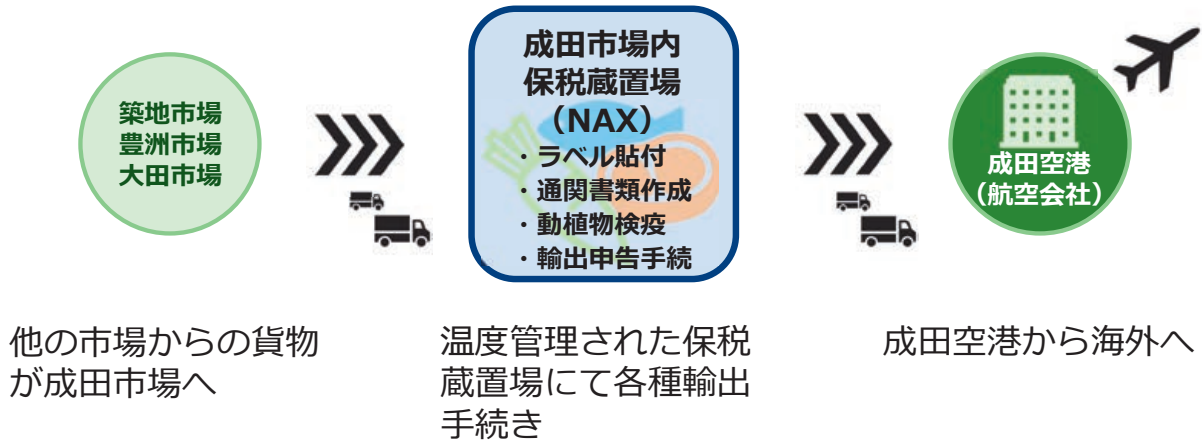


その他あらゆる
貨物を取り扱い

生鮮貨物の輸出



・ NAXが得意とする生鮮貨物の輸出について



2

築地の鮮魚、空を飛ぶ



→ [動画再生](#)

3

生鮮貨物の輸入



・生鮮貨物の輸入もおまかせください



4

成田市場の活用



貨物地区倉庫



2021年11月をもって



成田市場



3温度帯の冷蔵・冷凍設備を導入し保管温度を調整



2021年11月に移転 + 営業所も開設
(弊社の倉庫面積は従来の7倍に)

成田市場内高機能物流棟の総延べ床面積1万4120㎡のうち、1400㎡が弊社保税蔵置場(屋外を含めると3758㎡)として、輸出入手続きを行っています

5

輸出拠点としての成田市場の特長



1 鮮度の劣化が最小限に



保税倉庫が市場内にあることで市場と保税倉庫間の輸送が極力短いため鮮度劣化を最小限に留めることが可能に

2 手続きの高速化



検疫官が成田市場へ出張して下さることで、検疫や各種証明書の発行を市場内で行うことで手続きが高速化

6

今後の展望



輸出手続きの簡略化、航空会社・省庁との連携



システム化・DX推進・データ連携による徹底的な効率化



物理的な作業の半自動化・機械化



各種認証の取得 鮮度維持・品質向上・他国への輸出簡略化

7

ITシステムの積極活用とDX推進



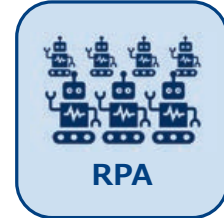
DX推進 by NAX

- ・サービスの利便性向上
- ・業務効率化



環境整備・構築

- ・基幹システム整備
- ・各社システムとデータ連携



RPAの導入

- ・単純な重複作業にはRPAを積極導入
- ・18個のRPAで
年間6,222時間の削減を実現（2022年9月時点）

8

各種認証の取得



AEO／認定通関業者
(東京税関)



有機食品の小分け認証
(日本農林規格／JAS)



IATA公認代理店認可
(国際航空運送協会／IATA)



DX認定事業者
(経済産業省)

JFS規格

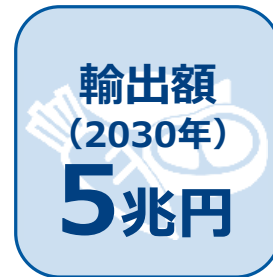
タイ向け輸出青果物の
選別・梱包施設認定
(農林水産省)
(食品安全マネジメント協会)

CEIVフレッシュ

※CEIVフレッシュ認証取得予定
(国際航空運送協会／IATA)

9

農水産物の輸出目標達成に貢献



- 輸送の効率化・品質向上を図るとともに、農水産物の輸出手続きを徹底的に簡略化し、輸出促進に貢献する
- 農林水産物の輸出額2030年に5兆円達成



トマト、パプリカにおける 産地戦略について

～国産・輸入取組報告～

豊通食料株式会社 加工開発本部
農産食品部 生鮮・水煮グループ
グループリーダー 齊藤健

1

 TOYOTA TSUSHO FOODS CORPORATION



本日のアジェンダ

- 1, 会社紹介

- 2, 農業生産について
 - 1) 国内農業の現状（農林センサスより）
 - 2) 輸入青果物動向
 - 3) 当社における事例紹介

2

 TOYOTA TSUSHO FOODS CORPORATION

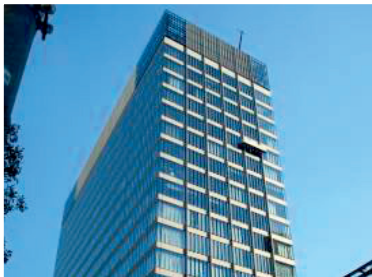
1, 会社紹介

3

 TOYOTA TSUSHO FOODS CORPORATION

1, 会社紹介（豊通食料会社概要）

豊通食料は、**食料分野に特化し**、
「安心・安全」な商品を「安定的」に提供する**食料専門商社**です。



【会社名】 豊通食料株式会社
 【設立】 1968年3月5日
 【資本金】 370百万円 （豊田通商(株)100%出資）
 【売上高】 557億円 （22年3月期）
 【従業員数】 173名
 【営業拠点】



東京本社 : 東京都港区港南2-3-13
 大阪営業所 : 大阪府中央区南船場4-3-11

【事業内容】

各種食品原料・食品・食材の販売及び輸出入食品加工などを主業務とした食料専門商社

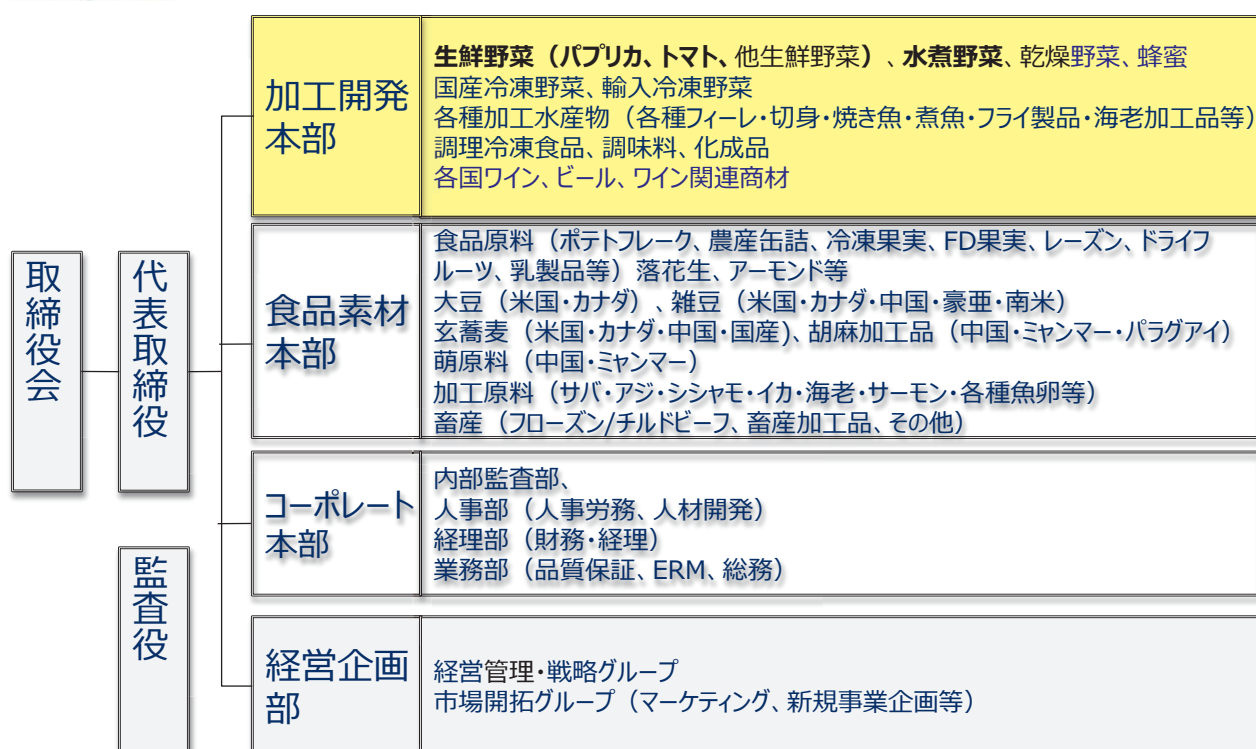


【主要取引先】 大手食品メーカー・大手食品問屋等
 【ホームページ】 <http://www.toyotsu-shokuryo.com/>

4

 TOYOTA TSUSHO FOODS CORPORATION

1, 会社概要（組織概略と主要取扱商品）



5

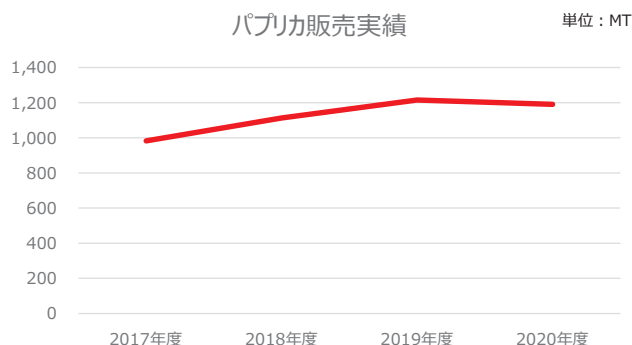
1, 会社概要（加工開発本部 組織図）



6

1, 会社概要 (生鮮・水煮グループ紹介)

① 事業概要 生鮮トマト、パプリカの2アイテムを取扱



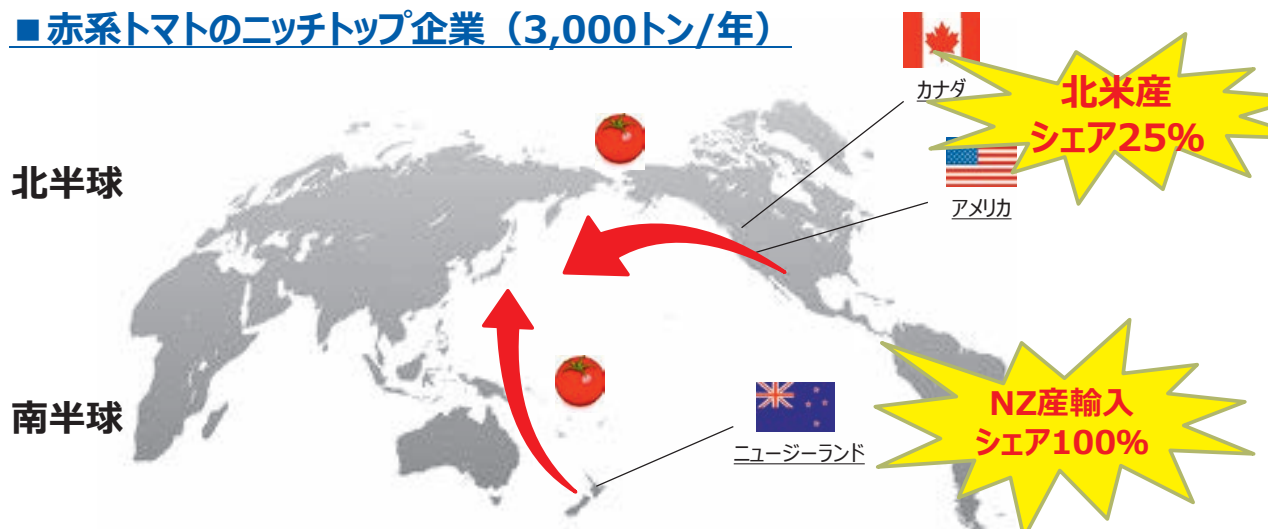
【トマト】 赤系トマトでニッチトップに成長
 ・2018年のCVSサンドイッチ賞味期限延長から
 全国1社供給に成功し売上・数量が拡大

※2020年、業界シェア70%へ拡大
 (2017年対比350%)

【国産パプリカ】 全国NO1の栽培面積農場を保有
 ・国内最大規模6haのパプリカ栽培温室を保有
 ・他産地との販売連携を含めた販売協業を進める
 ことで少人数での販売モデルを構築
 【輸入パプリカ】 同業他社との協業拡大開始
 ・NZ産は他商社との共同配送事業を開始し当社
 で輸入し、通関後に他社に内貨売を開始。

1, 会社概要 (生鮮・水煮グループ紹介)

■ 赤系トマトのニッチトップ企業 (3,000トン/年)



アメリカ・カナダ・ニュージーランド 3産地における適地適作の実施

当社実績： 輸入トマト 約8,113 tのうち 約925 tの取扱いあり

輸入トマト全体の 約11%のシェア *

※ミニトマトを含んだトマト 数値は2021年度輸入通関統計参照

* 数値は当社調べ

1, 会社概要（生鮮・水煮グループ紹介）

■ 安心安全な 国産パプリカ



農地所有適格法人 株式会社ベジ・ドリーム栗原



9

1, 会社概要（生鮮・水煮グループ紹介）

日本最大級のパプリカ農場

基本情報

- 社名： 株式会社ベジ・ドリーム栗原
(豊田通商株式会社 関連子会社)
- 立地： 宮城県栗原市 / 大衡村
- 設立： 2008年7月18日
- 資本金： 1 億円
- 栽培面積： 6.0 ヘクタール (2農場合計)
- 生産量： 約 1,000 トン / 年
- 標語： EAT COLOR!!



企業理念

- 国内自給率の低い農産物を生産し、新たな価値・食文化を提供します。
- 元気な地域の方たちと、安心安全な農作物の生産に努めます。
- 省エネに努め、環境に配慮した農業を行います。

10

(株)ベジ・ドリーム栗原、(株)デ・リーフデ北上ほか(宮城県栗原市、石巻市) 実証面積合計：8.2ha

実証課題名

パプリカスマート商流実現と他社間連携による安定出荷体制の構築

構成員

宮城県農政部園芸推進課、(株)ベジ・ドリーム栗原、(株)デ・リーフデ北上、(株)デ・リーフデ大川、(株)電縁、豊通食料(株)、銀座農園(株)、(株)エキサイト、農研機構西日本農業研究センター、公立大学法人宮城大学、宮城県(農政部農業振興課、農業・園芸総合研究所、栗原農業改良普及センター、石巻農業改良普及センター)、栗原市、石巻市、(公財)みやぎ農業振興公社



背景・課題

パプリカの安定出荷と宮城県産パプリカのブランド力向上のためには、他社間で連携した出荷体制の構築が必要である。しかし、連携のための情報共有ツールがなく、出荷予定数量共有のための収量予測精度に課題がある。



(株)デ・リーフデ北上

本実証プロジェクトにける想い

本実証課題では、宮城県を代表する大規模施設園芸経営体の連携によりパプリカ安定出荷体制を構築します。また、栽培、選果・出荷、流通、消費者ニーズまでの情報をデータ化し、パプリカのスマート商流の実現を目指します。

構成員一丸となって、宮城県産パプリカのブランド力を向上させると共に、消費者ニーズにも対応した販売体制を確立します！

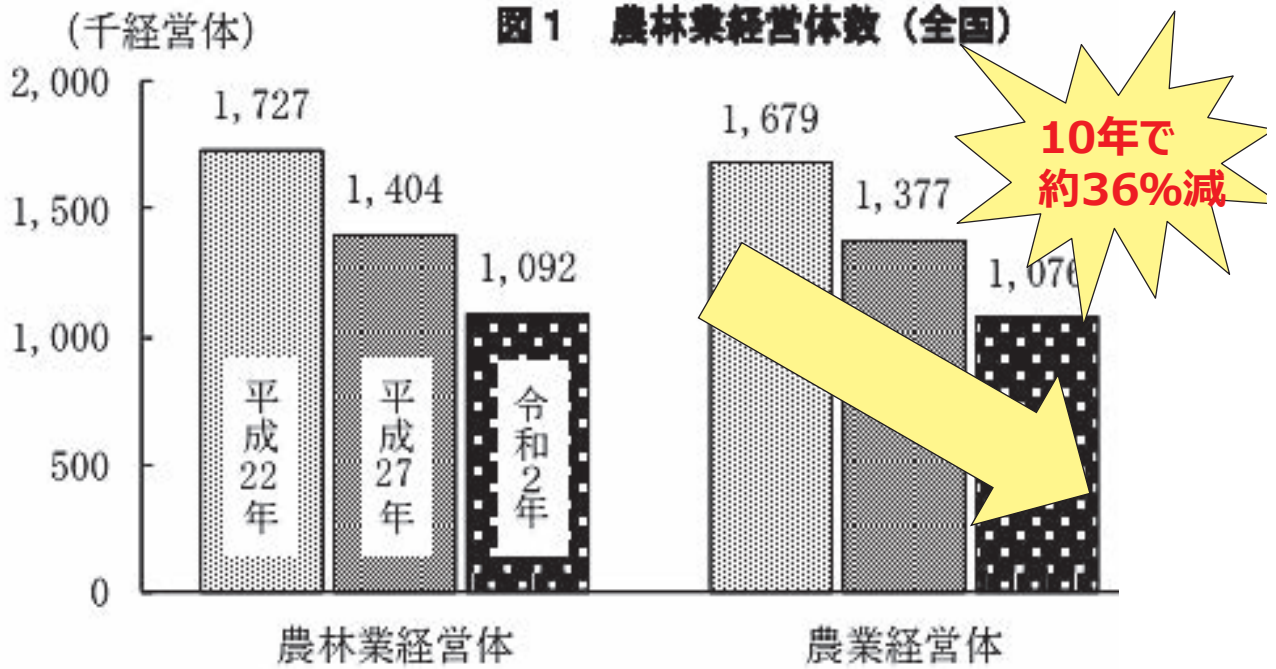
目 標

- パプリカの販売平均単価を5%向上させる。
- パプリカ安定生産・出荷に寄与する栽培管理サポートシステムとデータ統合プラットフォームを実装する。

2, 農業生産について (農林センサスより)

2, 農業生産について 1) 国内農業の現状

① 農業経営体数 経営体数は減少傾向 (5年で22%減)



出所：農林センサス 農林業センサス：農林水産省 (maff.go.jp)

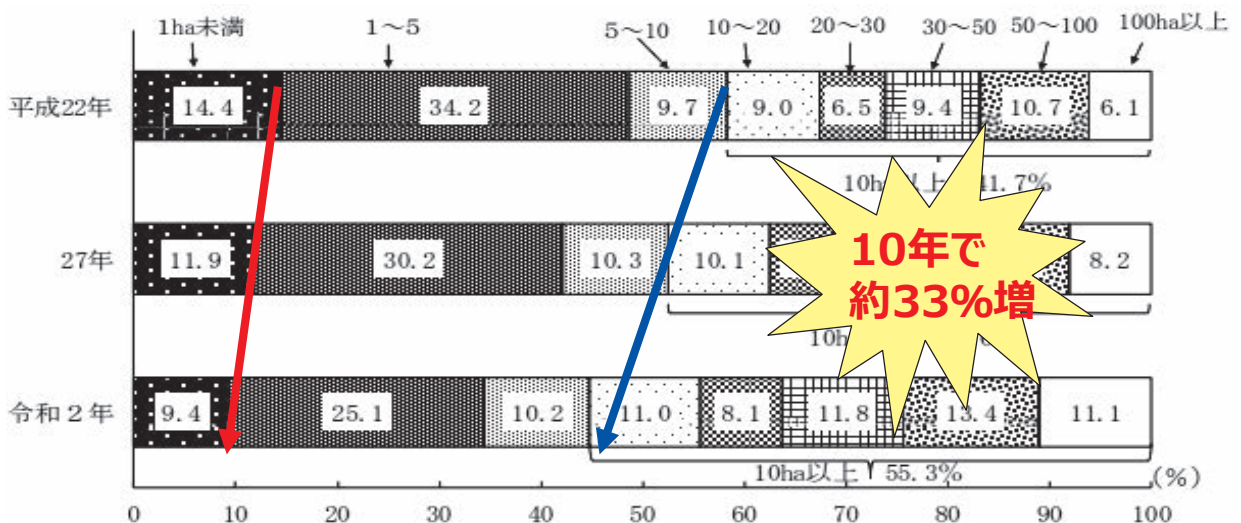
13

2, 農業生産について 1) 国内農業の現状

② 経営耕地面積規模 1 経営体あたりの面積は拡大中

- ・1 ha未満経営体 : ▲約35%
- ・10ha以上経営体 : +33%

※平成22年、令和2年対比 (10年間でも大きく変動している)



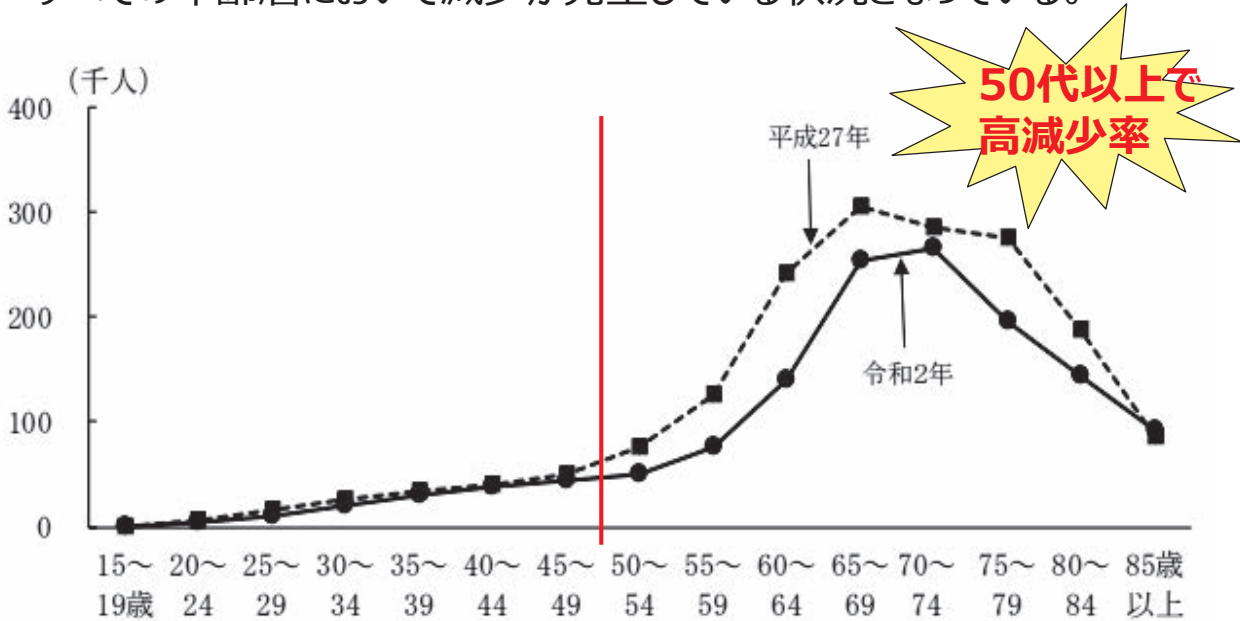
出所：農林センサス 農林業センサス：農林水産省 (maff.go.jp)

14

2, 農業生産について 1) 国内農業の現状

③ 基幹的農業従事者数 各世代で減少傾向

・すべての年齢層において減少が発生している状況となっている。



出所：農林センサス 農林業センサス：農林水産省 (maff.go.jp)

15

2, 農業生産について 1) 国内農業の現状

④ 高齢化が進む日本農業

基幹的農業従事者（個人経営体）

令和3年では、65歳以上比率が69.5%まで拡大

単位：万人、歳

	平成27年	28年	29年	30年	31年	令和2年	3年
基幹的農業従事者	175.7	158.6	150.7	145.1	140.4	136.3	130.2
うち女性	75.1	65.6	61.9	58.6	56.2	54.1	51.2
うち65歳以上	114.0	103.1	100.1	98.7	97.9	94.9	90.5
平均年齢	67.1	66.8	66.6	66.6	66.8	67.8	67.9

資料：農林業センサス、農業構造動態調査（農林水産省統計部）

注：1 「基幹的農業従事者」とは、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

2 平成27年、令和2年は全数調査で実施した農林業センサスの結果であるのに対し、平成28年～31年、令和3年は標本調査で実施した農業構造動態調査の結果であり、表章されている値は推定値であることから、直接比較して利用する場合には留意する必要がある。

出所：農林水産省HP 農業労働力に関する統計：農林水産省 (maff.go.jp)

16

2, 農業生産について 1) 国内農業の現状

- ⑤ 施設園芸に利用したハウス・ガラス室のある経営体数と施設面積
 ・経営体数、面積共に減少傾向。設備投資の回収困難が発生？

	経営体数 (経営体)	面積 (a)	1経営体あたりの 面積 (a)
2015年	174,729	3,825,433	21.9
2020年	139,540	3,279,578	23.5
増減率 (%)	79.8%	85.7%	107.3%

- ・直近の燃料・肥料・資材高騰も加味すると、来年以降はさらに面積減少が加速する可能性が高いと思われる。
- ・企業の農業参入も本業不振により事業撤退・売却が進む見込み

※2011年前後の企業の農業参入ブームから10年経過してきて設備更新が必要となるため。

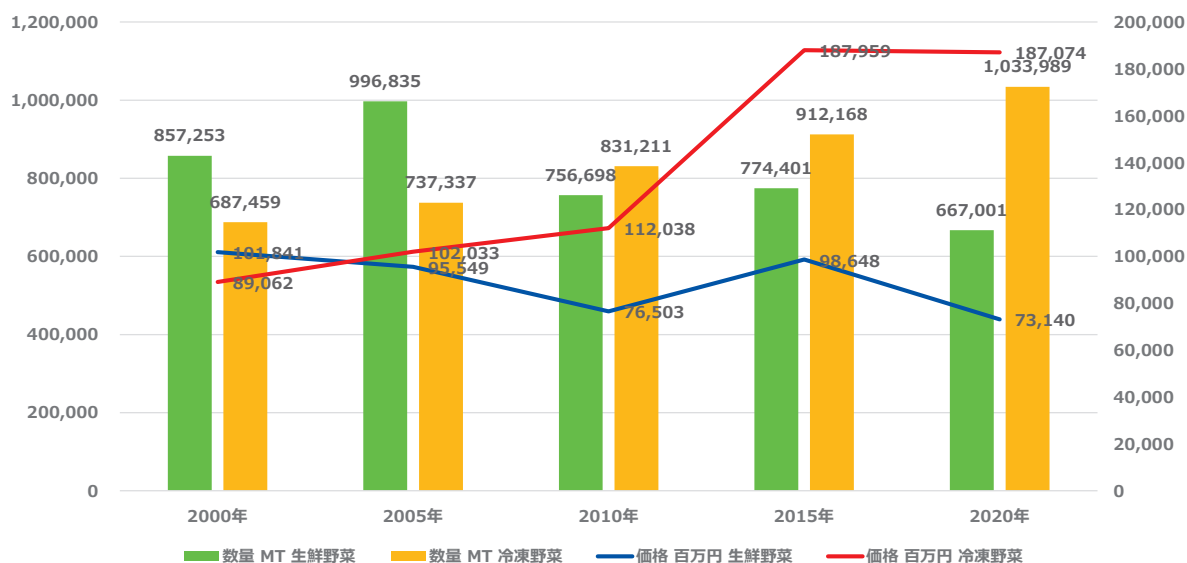
出所：農林センサス 農林業センサス：農林水産省 (maff.go.jp)

17

2, 農業生産について 2) 輸入青果物動向

- ① 生鮮野菜は減少傾向、冷凍野菜は増加傾向 (2000年対比)

- ・生鮮野菜：数量 78%、金額 72%
- ・冷凍野菜：数量 150%、金額 210%



出所：財務省 貿易貿易統計資料より

18

2, 農業生産について 2) 輸入青果物動向

②止まらない円安によるコスト増

- ・前年9月対比：+23%（21年110円/\$、22年 142円/\$）
- 実質仕入コストが為替だけで23%上昇中



出所：三菱UFJ銀行HP 外国為替チャート | 三菱UFJ銀行 (mufg.jp)

19

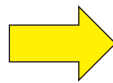
2, 農業生産について 3) 当社における事例

■赤系トマトの特徴（ピンク系との違い）



国産生食用トマトと比較すると

部屋数が多い
ドロップが少ない
果肉が厚い



- ①加熱調理・カット加工適正が高い
- ②使用用途が幅広い
- ③加工歩留りが高い

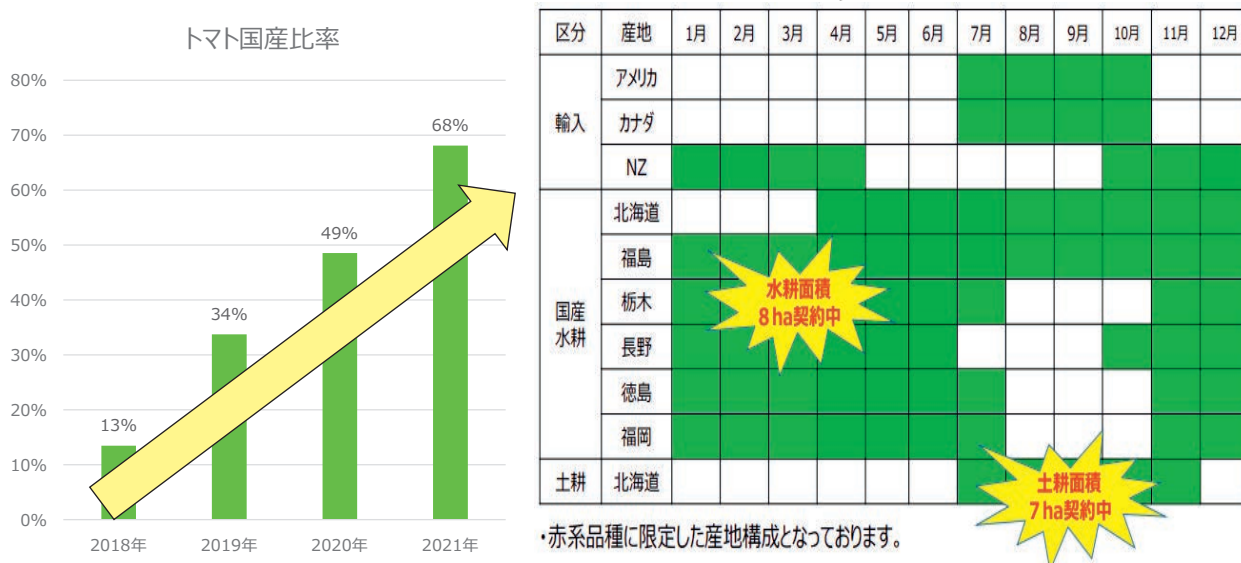
評価項目	国産・輸入トマト比較表	
	国産トマト	輸入トマト
生食適性	◎	○
安定供給	△	◎
安定品質	△	○
加熱調理適性	△	○
カット加工適性	△	○
調理パン適性	△	○
食品安全性	○	◎

※当社調べ

20

① トマト販売

・2017年からトマト栽培の国産化を開始しております。



・直近の円安の影響で北米産エアー便調達はコストが全く合わず、今後も安定した取組のためにも国産化を推進せざるを得ない状況

21

② 輸入トマトについて

・納品規格

- ・韓国産：4kg箱定数詰め（日本と同じ規格）
- ・北米産：TOVのため重量保証で玉数・サイズは不問
定数詰めBeefは収穫の手間がかかるため減少傾向
- ・NZ産：サイズ選別済みバラ詰め、重量保証

【TOV】



【Beef】



【Loose】



・課題

- ①フルサイズでの販売ができないと買えない。
- ②日本でのサイズ選別・箱詰め作業が必要になる。

22

3, 農業生産について 3) 当社における事例

日本最大級のパプリカ農場 (再掲)

基本情報

- 社名: 株式会社ベジ・ドリーム栗原
(豊田通商株式会社 関連子会社)
- 立地: 宮城県栗原市 / 大衡村
- 設立: 2008年7月18日
- 資本金: 1 億円
- 栽培面積: 6.0 ヘクタール (2農場合計)
- 生産量: 約 1,000 トン / 年
- 標語: EAT COLOR!!



企業理念

- 国内自給率の低い農産物を生産し、新たな価値・食文化を提供します。
- 元気な地域の方たちと、安心安全な農作物の生産に努めます。
- 省エネに努め、環境に配慮した農業を行います。

23

3, 農業生産について 3) 当社における事例

②パプリカ栽培

強み
~2つの顔~

農場の顔



工場の顔



- 農家としてのプライド(品質へのこだわり)
- 農家の勘 (経験による予測)
- 柔軟性 / 俊敏さ / 多様性 (気候変動対応)
- 経験豊富な地元従業員 (高定着率)
- 豊富な栽培担当人材
(海外 = 1農場1名に対し、当社は5名)

- 収量 / 原価の細かな計画設定
- 原価低減への意識
- 安全衛生 / コンプライアンスの徹底順守
- 計画的な設備保全
- 改善 / 効率化への意識
- 計画的な労務管理

24

3, 農業生産について 3) 当社における事例

栗原農場

- 設立： 2010年6月
- 立地： 宮城県栗原市高清水
- 栽培面積： 約 4.2 ヘクタール
- 生産量： 約 750 トン / 年
- 施設： 発芽室、育苗室、栽培室、選果・出荷場、保冷库
- 従業員数： 55名：社員 5名 (栽培責任者3名、選果責任者1名、経理・総務1名)
パート従業員 50名 (栽培室40名、選果10名)



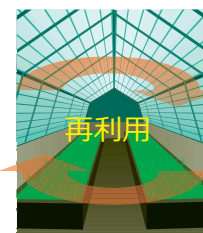
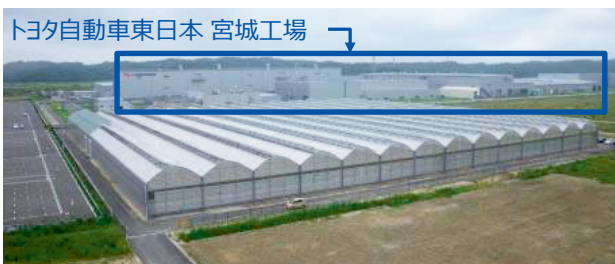
- 幅400メートル
- 奥行100メートル
- 東京ドームと同等の面積規模

25

3, 農業生産について 3) 当社における事例

大衡農場

- 設立： 2013年4月
- 立地： 宮城県黒川郡大衡村
- 栽培面積： 約 1.8 ヘクタール
- 生産量： 約 250 トン / 年
- 施設： 栽培室
- 従業員数： 15名：社員 2名 (栽培責任者)
パート従業員 13名 (栽培室のみ)
- 特徴： トヨタ自動車東日本 敷地内の発電機から発生する排熱を活用する冬作型温室として建造され、省エネ・環境への配慮を意識した農場



26

エネルギーの効率的利用

栗原農場対比
燃料使用量 半減

養液のリサイクルシステム
廃液を殺菌し、繰返し使用

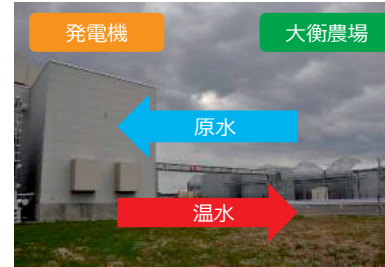
ダブルフィルムの屋根
1重フィルムに比べ、約25~30%の省エネ効果

雨水タンク 約1000t×2基
屋根に降った雨を貯水し、栽培に利用

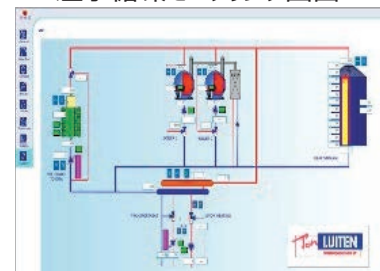
日本初

- 壁のカーテン**
温室内4方向を保温。カーテンで覆い、横方向への放熱を防止し、保温効果を高める
- 2重フィルムの床**
土壌からの隔離と、地下方向への放熱を防止
- 2重スクリーン**
保温スクリーンを2重強りにし、暖房体積の減少と上への放熱抑制
- 多層のポリカーボネートの壁**
フィルムに比べ、
①保温効果が高い、
②5年毎の張替えが不要

断面構造



温水循環モニタリング画面



27

ご清聴ありがとうございました



VISION 2030
Go Beyond
& Cross a
Tasty Bridge



豊通食料株式会社

28



生鮮品物流システム “Fresh Logi™”を用いた 青果物の鮮度保持輸送

旭化成株式会社
ライフノベーション事業本部 食農プロジェクト
上山健治



アジェンダ

- 旭化成株式会社 概要
- Fresh Logi™ システム のご紹介
- ブロッコリーでの鮮度保持効果実証試験について



旭化成株式会社 概要

3

会社概要

社名 旭化成株式会社

資本金 1,033億円

創業 1922年

2021年度業績
 売上高 24,613億円
 営業利益 2,026億円

マテリアル事業領域

Environment/Energy Mobility Life Material



- ・旭化成
- ・旭化成エレクトロニクス

住宅事業領域

Home & Living



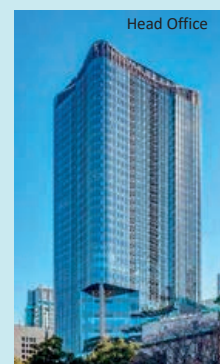
- ・旭化成ホームズ
- ・旭化成建材

ヘルスケア事業領域

Health Care



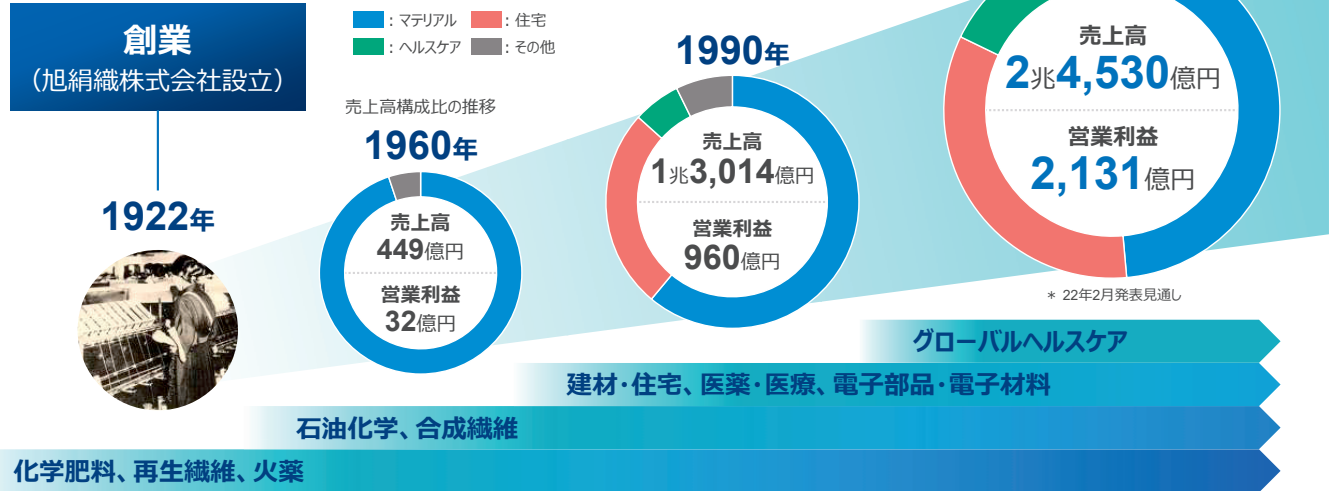
- ・旭化成ファーマ
- ・Zoll Medical
- ・旭化成メディカル
- ・Veloxis



Head Office

4

創業から100年間、時代とともに変化する社会課題に挑戦し、
ポートフォリオをたえず変革することで成長を実現



Fresh Logi™ システムの ご紹介

青果物の鮮度保持における環境制御

青果物は収穫した後も呼吸し、自身の養分を消費しながら成長、劣化、腐敗していく。そのため、鮮度保持には以下の制御が重要。

- ✓ **温度**：呼吸量は温度上昇とともに指数関数的に増加する。
温度が低すぎる場合は、低温障害を引き起こす。
- ✓ **湿度**：高温度な環境では、蒸散が抑制され瑞々しさが保たれる。
- ✓ **ガス組成**：
 - 酸素（二酸化炭素）：低酸素状態では、呼吸を抑制できる。
 - エチレンガス：熟成を促す。熟成が進み、劣化、腐敗につながる。

「高い断熱性能」と「密閉性能」を兼ね備えた **Fresh Logi** ボックスを開発。これにより、輸送・保管環境（温湿度・CO₂）を制御。さらに、エチレン作用抑制剤「1-MCP」を徐放することで、エチレンの影響を制御。⇒ **高い鮮度保持を実現**。

加えて、ボックス内の環境（温湿度・CO₂）を測定、解析する **Fresh Logi** システムを開発。これにより、輸送・保管環境を解析することで **鮮度評価を実現**。

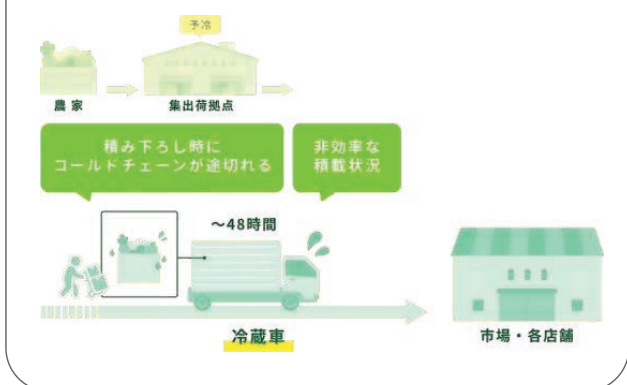


Fresh Logi ボックス

7

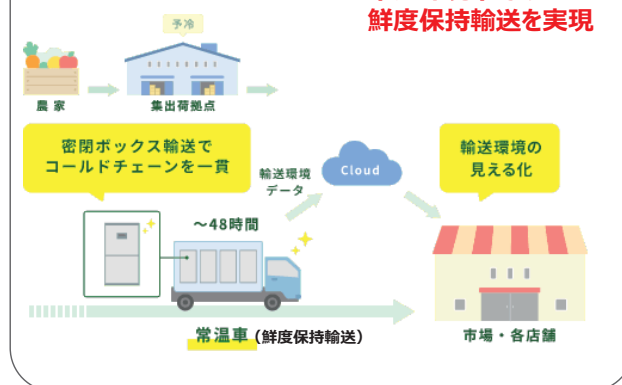
Fresh Logi™ システムによる課題解決

現状輸送



- ・冷蔵車の場合は下りの荷量が少なく、低い積載率となっている（平均積載率 約40%）
- ・ドライバーの高齢化・担い手不足に伴う輸送力の低下
- ・荷積み、荷下ろし時のコールドチェーン断絶
- ・温度のみの制御のため、最適な鮮度保持輸送が行えていない

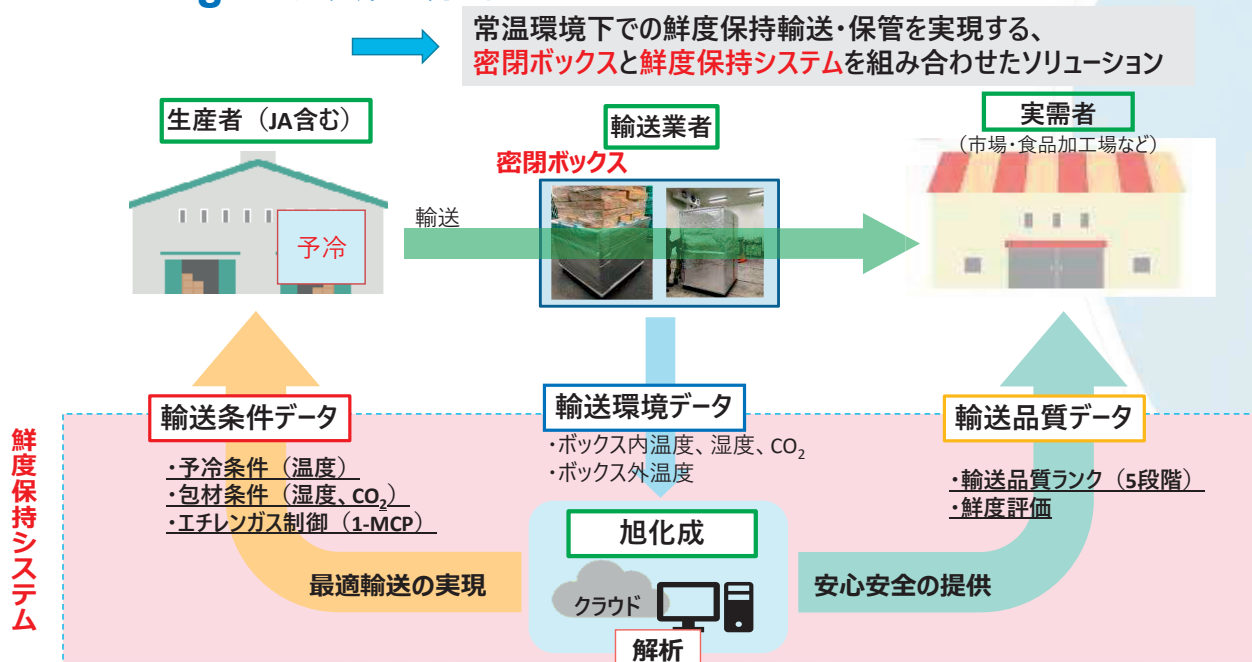
Fresh Logi輸送



- ・ドライ品との混載による **積載率向上**
(上りと下りの荷量のマッチング)
- ・常温輸送（モーダルシフト）活用による **輸送力向上**
- ・密閉ボックス輸送による **コールドチェーン連結**
- ・**温湿度、呼吸量の制御**による最適鮮度保持輸送の実現

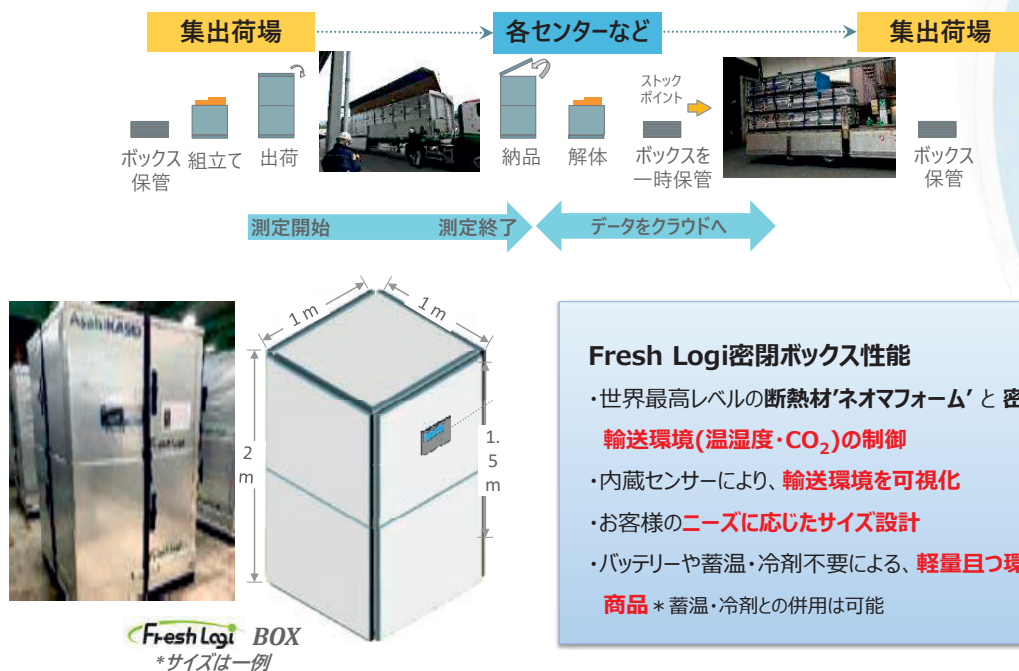
8

Fresh Logi™ システム概要



9

Fresh Logi™ 密閉 (保冷) ボックス概要



Fresh Logi密閉ボックス性能

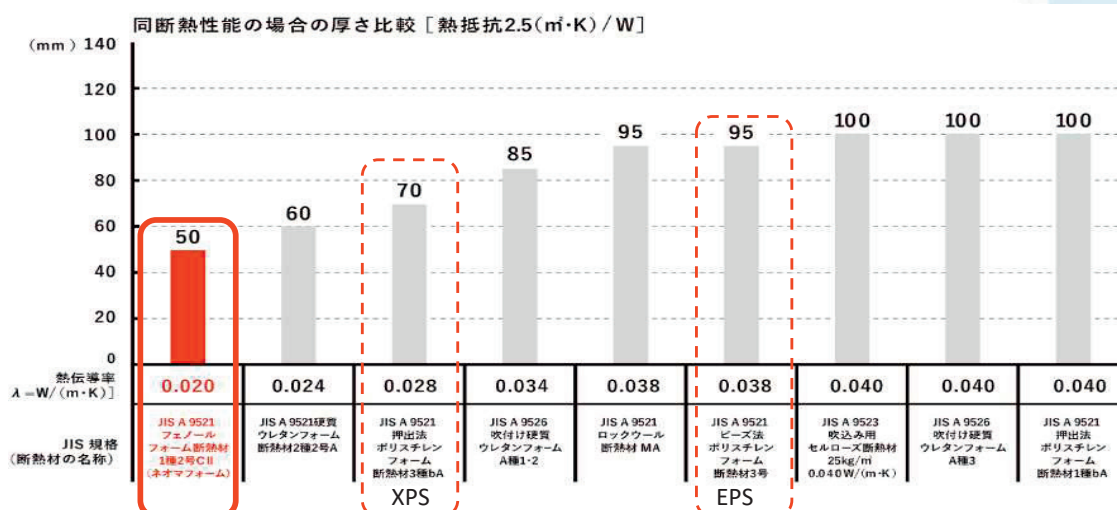
- ・世界最高レベルの断熱材'ネオマフォーム'と密閉性能による**輸送環境(温湿度・CO₂)の制御**
- ・内蔵センサーにより、**輸送環境を可視化**
- ・お客様のニーズに応じた**サイズ設計**
- ・バッテリーや蓄温・冷剤不要による、**軽量且つ環境に優しい商品** * 蓄温・冷剤との併用は可能

10

ネオマフォーム® 断熱性能

世界最高レベルの断熱性により、ボックス内部温度を保持し、青果物の**鮮度保持輸送**を可能に

ヘーベルハウスなど住宅用の断熱材



11

Fresh Logi™ システムによる冷蔵機能のない輸送方法への適用

(例：貨客混載)

宮崎県産の地鶏、野菜の配送をソラシードエアが空陸一貫して行うサービスにFresh Logi™ 密閉ボックスを活用



蓄冷材をセットで使用することで常温環境下において10℃以下の輸送を実現

12



ブロッコリーでの鮮度保持効果 実証試験について

試験概要

・課題

夏作のブロッコリーは温度コントロールの観点から発泡容器に氷詰めで出荷されている。しかし、発泡容器は繰り返し使用ができず**環境・コスト負担が大き**く、かつ、発泡屑のコンタミ懸念があるため、折り畳み式コンテナへの切り替え要望が高まっている。

・目的

Fresh Logi™ システムの活用により、折り畳み式コンテナ輸送の有効性を検証する。

・ご協力機関 (敬称略)

Agsoil株式会社、日建リース工業株式会社、
横浜丸中グループ 横浜市場センター株式会社、
JAおとふけ、ホクレン農業協同組合連合会

慣行の梱包



↑発泡容器・氷詰めブロッコリーの様子
生活協同組合コープしがHPより

試験条件

・品目

JAおとふけ（北海道河東郡音更町）管内で栽培された夏作ブロッコリー

・スケジュール

8/22, 23 収穫・選果、FL積込

8/24 出荷

冷蔵トラック輸送（北海道河東郡音更町→神奈川県横浜市）

8/26 着荷 横浜丸中青果南部市場センター（5℃設定）

8/26~9/23 評価期間

・輸送条件

出荷前に、予冷库（3℃設定）にて1~2日予冷

冷蔵トラック（3~5℃設定）に積載し、約37時間輸送

・評価方法

外観評価（結露、黄化、カビ）、輸送環境評価（芯温、湿度、CO₂）



冷蔵トラック輸送
北海道→神奈川
(8/24~26)

輸送条件

使用した輸送資材

- ・Fresh Logi™ボックス（以下、FL）
（有り / 無し）
- ・包材（開放 / 密封）
- ・折り畳み式コンテナ



輸送条件	Fresh Logi™ の有無	包材の開閉
条件① FLなし輸送	無し	密封 
条件② FL輸送 (包材閉)	有り	密封 
条件③ FL輸送 (包材開)	有り	開放 (口を縛らない)

荷着後の鮮度保持評価

輸送条件	Fresh Logi™ の有無	包材の開閉	
		開	閉
条件① FLなし輸送	無し		密封
条件② FL輸送 (包材閉)	有り		密封
条件③ FL輸送 (包材閉)	有り		開放 (口を縛らない)

冷蔵保管

評価条件	荷着後の 包材の開閉
評価頻度： 荷着後、1週間毎の 経時評価	
評価① FLなし輸送	開封
評価②-a FL輸送 (包材閉⇒開)	開封
評価②-b FL輸送 (包材閉⇒閉)	密封 のまま
評価③ FL輸送 (包材開⇒開)	開放のまま

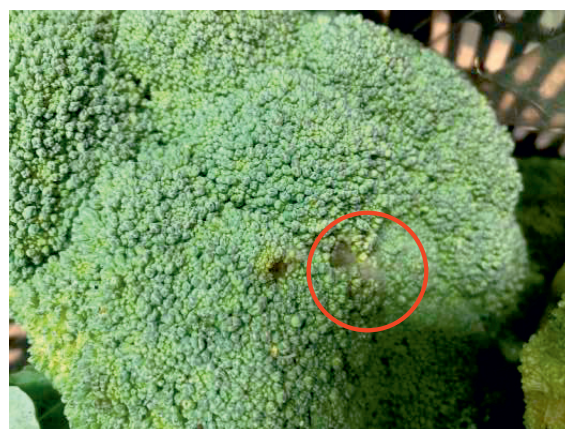
17

劣化拡大写真

黄化



カビ



18

外観評価（写真）①FLなし輸送

8/26 入荷時(黄化・カビ0)



9/2 1週間保管(黄化3カビ0)



9/9 2週間保管(黄化4カビ0)



9/16 3週間保管(黄化6カビ1)



9/23 4週間保管(黄化7カビ5臭有)



19

外観評価（写真）②-a FL輸送（包材閉⇒開）

8/26 入荷時(黄化・カビ0)



9/2 1週間保管(黄化0カビ1)



9/9 2週間保管(黄化0カビ1)



9/16 3週間保管(黄化0カビ4)

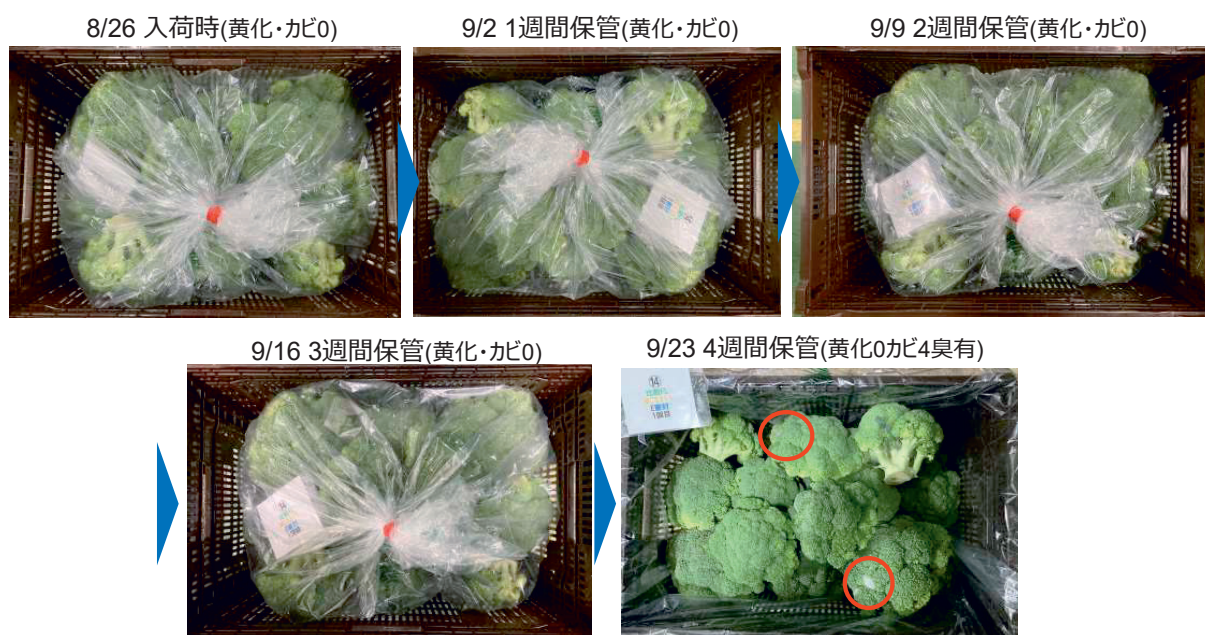


9/23 4週間保管(黄化0カビ5臭有)



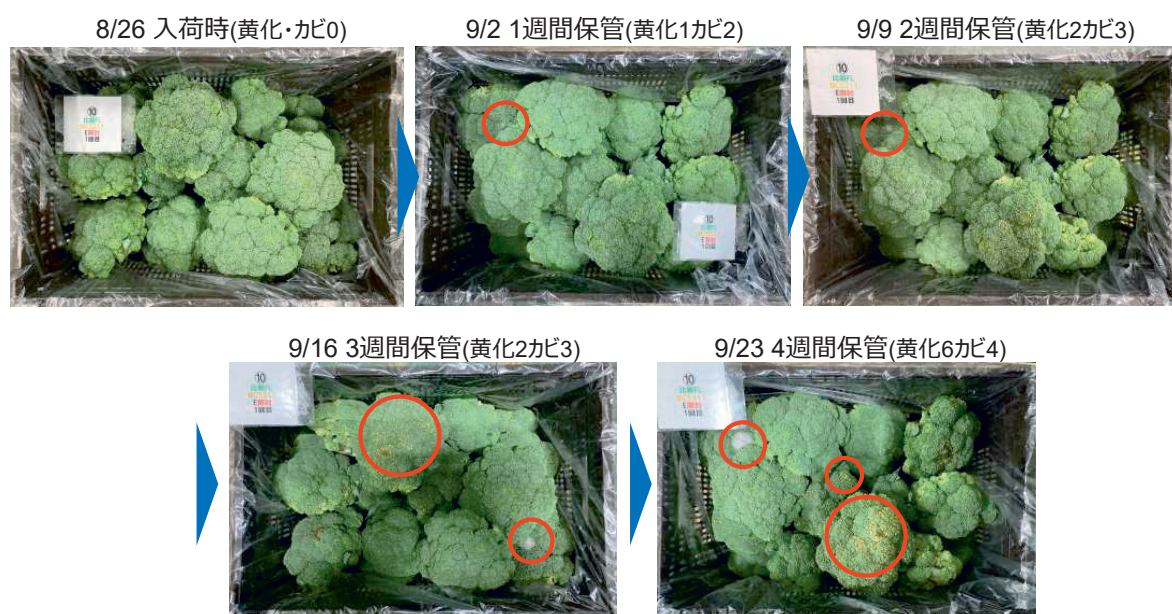
20

外観評価（写真）②-b FL輸送（包材閉⇒閉）



21

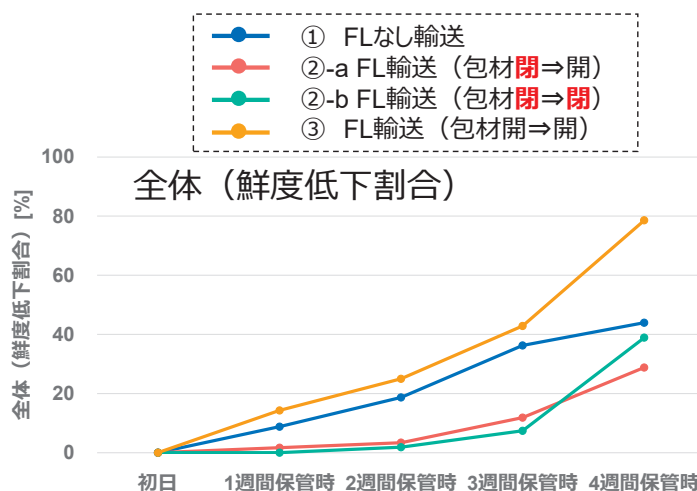
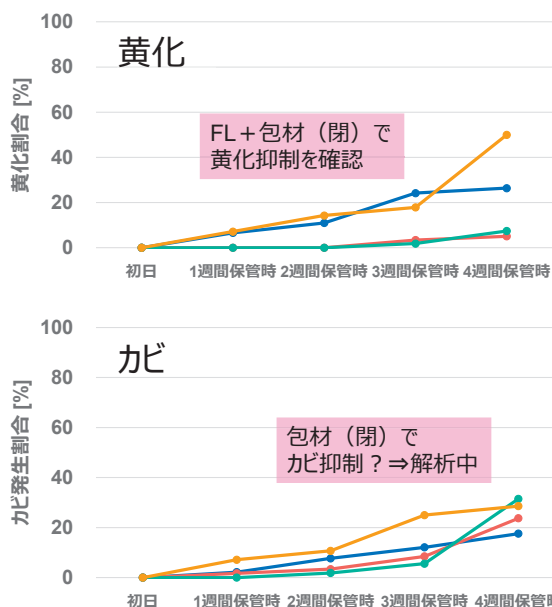
外観評価（写真）③FL輸送（包材開⇒開）



22

外観評価

黄化、カビ発生割合：黄化、カビの発生した個体数／全サンプル個体数



※全体 = 黄化、カビ、その他鮮度劣化個数の総計／全体個数

FL+包材(閉)により、鮮度低下抑制を確認

23

まとめ・考察

<まとめ>

- FLの活用により、芯温の温度変化を抑制し、また包材を併用することで、CO₂濃度を高め（約12%）、荷着後の鮮度低下抑制を確認。
- 湿度については、包材内で高湿度の保持を確認（FLの有無で有意差なし）。
- 荷着後のカビ発生との輸送環境の相関性については解析中。

以上により、

Fresh Logi™ システムと包材の併用で、折り畳み式コンテナでの輸送の有効性が示唆された。

24

AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“暮らし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、
次の時代へ大胆に応えていくために一。

私たちは、昨日まで世界になかったものを創造し続けます。



青果物の輸出をめぐる情勢について

農林水産省

目次

政府の輸出促進政策と新たな輸出額目標	p. 2
日本産青果物の輸出状況	p. 7
青果物の輸出強化戦略	p.19
改正輸出促進法の概要	p.22

政府の輸出促進政策と新たな輸出額目標

2

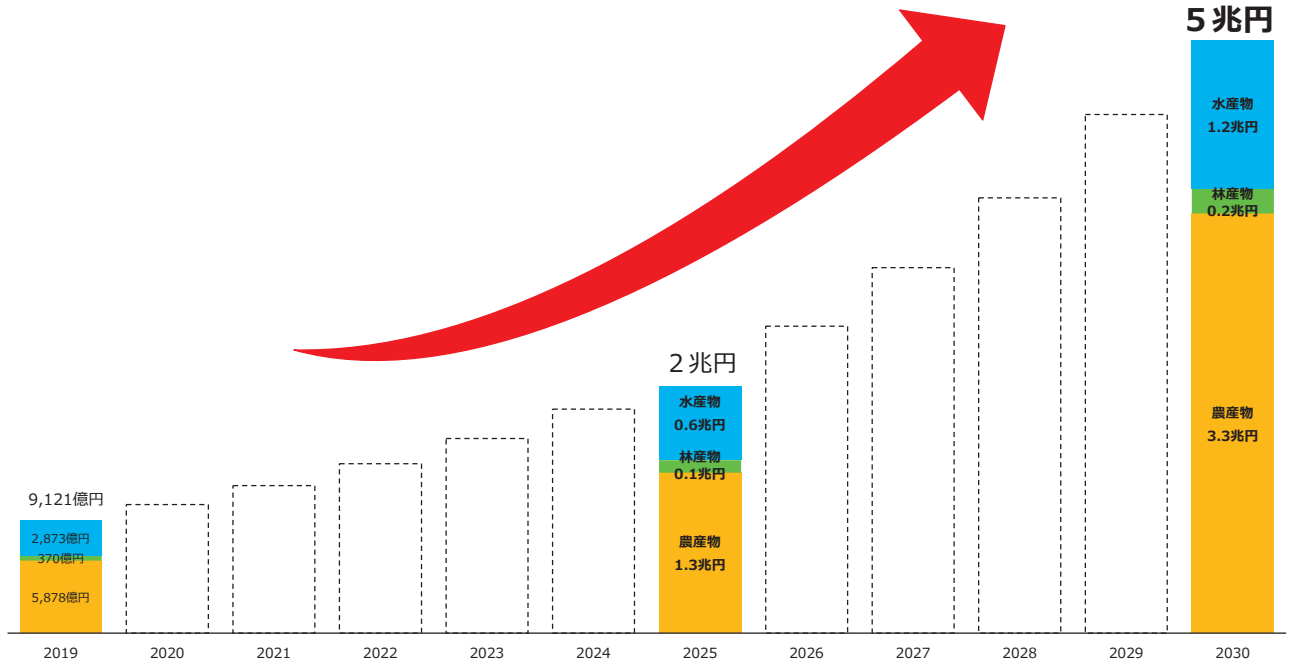
政府の輸出促進政策

- 2019年11月、輸出先国による食品安全規制等に対応するため、輸出先国との協議等について、政府一体となって取り組むための体制整備等を内容とする、「**農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律**」が成立（令和2年4月1日施行）。
- 食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日閣議決定）において、**2030年までに農林水産物・食品の輸出額を5兆円とする目標を設定。**
- 経済財政運営と改革の基本方針2020・成長戦略フォローアップ（令和2年7月17日閣議決定）において、中間目標として、**2025年までに農林水産物・食品の輸出額を2兆円とする目標を設定。**
- 2020年12月、総理大臣を本部長とする「**農林水産業・地域の活力創造本部**」において2025年、2030年目標の達成に向けた戦略である「**農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略**」を決定。
- 2021年12月、総理大臣を本部長とする「**農林水産業・地域の活力創造本部**」において「**農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略**」を改訂し、輸出促進法等の改正など施策の方向を決定。
- 2022年3月に**改正輸出促進法案**を国会へ提出し、2022年5月に可決・成立。さらなる今後の取組について方向性を定める「**農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略**」の改訂。

3

新たな農林水産物・食品の輸出額目標

農林水産物・食品の輸出額を、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とすることを目指す。

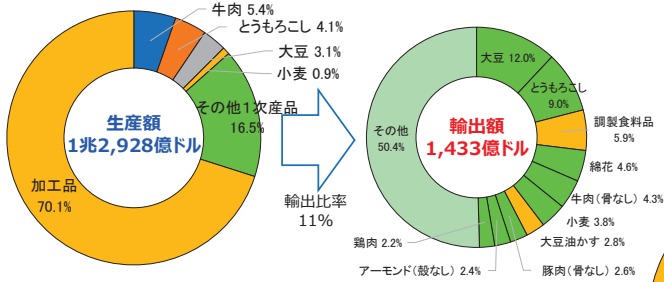


※少額貨物（1ロット20万円以下）を新たに輸出額のカウントに追加

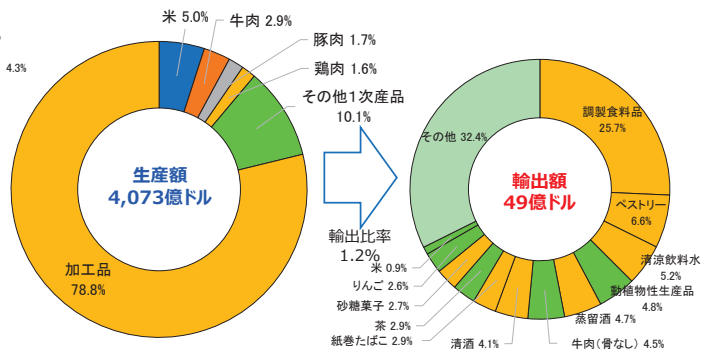
日本の強みを最大限に発揮するための取組が必要

<現状> 他の先進国が、それぞれの国で強みを有する産品を相当程度輸出しているのに対し、日本では、加工品を中心に輸出品目が多岐にわたり、強みを有する産品のシェアが小さい。

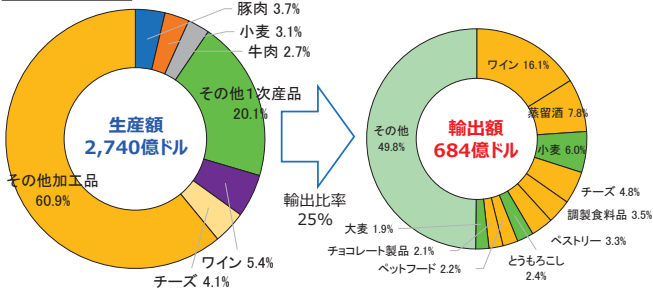
米国 主要な輸出品目は、大豆、とうもろこし、小麦等の土地利用型の作物や牛肉など、米国の広大な土地を利用した産品



日本 主要な輸出品目は、調製食品、ペストリー（小麦生地の菓子等）、清涼飲料水等の多様な加工品。米など日本らしい産品の輸出の比率は小さい



フランス 主要な輸出品目は、ワイン、チーズ等の伝統的な食文化に支えられた加工品



(注) 生鮮品・原材料
加工品
「調製食品」 スープ、クチャップ、ソース類、ベーキングパウダー等
「ペストリー」 ビスケット、ワッフル、米菓(あられ・せんべい)等

資料：FAOSTATより作成
※FAOのデータのため、林産物・水産物は含まれない

輸出拡大実行戦略に基づく具体的な施策①(輸出重点品目(28品目)の選定)

- 海外で評価される日本の強みを有し、輸出拡大に向けた取組の余地の大きい28品目を重点品目に選定し、集中的に支援。(R3年12月改訂により、「果樹(かき・かき加工品)」を追加)

輸出重点品目	海外で評価される日本の強み	輸出重点品目	海外で評価される日本の強み
牛肉	和牛として世界中で認められ、人気が高く、引き続き輸出の伸びに期待。	ぶり	脂ののっている日本独自の魚種。近年、米国等への輸出額が増加。
豚肉、鶏肉	とんかつ、焼き鳥など日本の食文化とあわせて海外の日本ファンにアピールすることで、今後の輸出の伸びに期待。	たい	縁起のよい赤色は中華圏でも好まれる。活魚輸出の増加に期待。
鶏卵	半熟たまごが浸透し、生食できる卵としての品質が評価され、更なる輸出の伸びに期待。	ホタテ貝	高品質な日本産ホタテ貝は世界で高く評価。水産物では輸出額ナンバーワン。
牛乳・乳製品	香港や台湾で品質が高評価。アジアを中心に輸出の可能性。	真珠	真珠養殖は日本発祥。日本の生産・加工技術が国際的に高評価。
果樹(りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品)、野菜(いちご)	甘くて美味しく、見た目も良い日本の果実は海外でも人気。	清涼飲料水	緑茶飲料など日本の味が人気となり、伸び率が高い。
野菜(かんしょ等)※	焼き芋がアジアで大人気。輸出が急増。	菓子	日本独自の発展を遂げ、他国にはない獨創性。バラエティ豊かな商品とコンテンツの普及とともに海外で人気。
切り花	外国にはない品種に強み。輸出の伸び率が高い。	ソース混合調味料	カレールーなど日本食の普及とともに日本を代表する味に成長。
茶	健康志向の高まりと日本文化の浸透とともに欧米を中心にせん茶、抹茶が普及。	味噌・醤油	日本が誇る発酵食品。和食文化の浸透とともに欧米・アジア地域で人気も上昇。
コメ・バックご飯・米粉及び米粉製品	冷めても美味しい等の日本産米は寿司やおにぎり等に向き、日本食の普及とともに拡大が可能。	清酒(日本酒)	「SAKE」は日本食のみならず各国の料理に合う食中酒等として世界中で認知が拡大中。
製材	スギやヒノキは、日本式木造建築だけでなく香りの癒しの効果も人気で、今後の輸出の伸びに期待。	ウイスキー	日本産品の品質が世界中でブランドとして定着。
合板	合板の加工・利用技術は、日本の得意分野。日本式木造建築とともに、今後の輸出の伸びに期待。	本格焼酎・泡盛	原料の特徴を残すユニークな蒸留酒としての評価があり、今後の輸出拡大に期待。

※その他の野菜(たまねぎ等)についても、水田等を活用して輸出産地の形成に積極的に取り組む。

輸出重点品目以外でも、輸出事業計画の認定を受けるなど輸出目標とその実行のための課題と対策を明確化する産地等に対しては、引き続き適切に支援

6

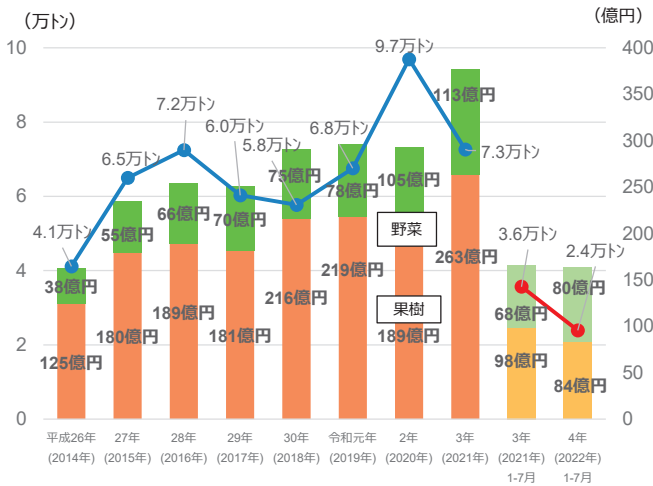
日本産青果物の輸出状況

7

青果物の輸出の状況

- 青果物の2021年の輸出実績は、数量ベースで7.3万トン（前年同期比25%減少）、金額ベースで377億円（前年同期比28%増加）と過去最高額を記録した。
- このうち、金額ベースでは、果実が70%、野菜が30%を占める。
- 2022年1-7月期については、主にりんごが大きく減少したこと等により、金額ベースで対前年同期比3%減の163.9億円となった。

○ 青果物の輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
 注1：2022年のデータから、青果物の数値は「かき」「かんしょ」それぞれの加工品を含む数値を算出。
 注2：2022年1月のシンガポール向けカリフラワー及びブロッコリーの金額は財務省貿易統計HPIに掲載されている「確報及び確々報公表後における修正情報の掲載について」(https://www.customs.go.jp/toukei/sankou/teisei/)の修正を農林水産省にて反映させたもの。

○ 品目別輸出実績 2021年

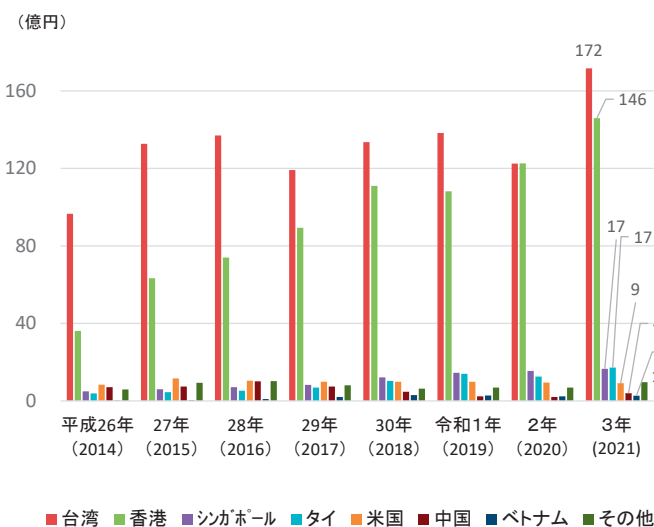
主な品目	2021年				2020年産 国内生産量 (t)	輸出量の 占める割合
	輸出数量 (t)	輸出金額 (百万円)	対前年同期増減率 (%)			
			数量ベース	金額ベース		
青果物	72,620	37,658	▲ 25.1	28.3	-	-
りんご	37,729	16,212	40.1	51.5	763,300	4.9%
ぶどう	1,837	4,629	7.3	12.4	163,400	1.1%
もも	1,926	2,322	20.5	24.1	98,900	2.0%
なし	1,313	961	10.5	25.9	198,200	0.7%
かんきつ	1,856	1,101	49.4	60.3	1,059,498	0.2%
かき	645	440	▲ 11.6	▲ 0.1	193,200	0.3%
いちご	1,776	4,061	50.6	54.4	159,200	1.1%
ながいも	6,773	2,314	13.0	8.7	149,500	4.5%
かんしょ	5,603	2,333	6.4	13.1	687,600	0.8%
たまねぎ	6,938	397	▲ 84.9	▲ 74.6	1,357,000	0.5%

資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」「特産果樹生産動態等調査」「野菜生産出荷統計」「作物統計」、財務省「貿易統計」を基に作成
 注1：なしは日本なしと西洋なしを足して算出。
 注2：かんきつは果樹生産出荷統計のみかん（R2）と特産果樹生産動態等調査のかんきつ類（R1）を足して算出。
 注3：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

青果物の輸出の状況

- 輸出先国・地域別では、金額ベースで台湾向けが172億円と最も多く、台湾、香港向けが全体の輸出金額の8割以上を占める。

○ 青果物の国・地域別輸出額推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

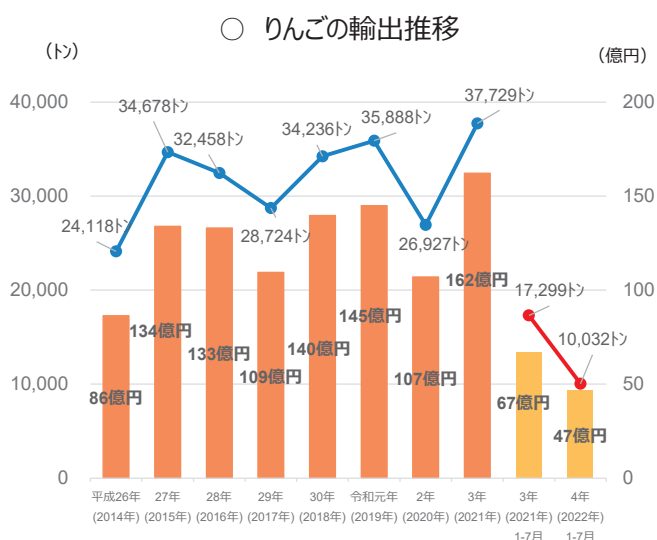
○ 青果物の国・地域別内訳 2021年

	国名	輸出額 (量)	輸出額 増減率	輸出額 構成比
1	台湾	171.6億円 (36,272トン)	40.2%	45.6%
2	香港	145.9億円 (21,468トン)	19.0%	38.7%
3	タイ	17.2億円 (3,157トン)	36.9%	4.6%
4	シンガポール	16.6億円 (3,331トン)	7.4%	4.4%
5	アフリカ合衆国	9.2億円 (2,251トン)	▲ 2.8%	2.4%
-	その他	16.2億円 (6,141トン)	45.2%	4.3%
-	世界	376.6億円 (72,620トン)	28.3%	100%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
 注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

りんごの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2021年の春節時期が例年より遅い時期（2月12日）で需要が2月上旬まで続いたこと、2022年の春節（2月1日）に向けてコンテナ船遅延を懸念し輸出を前倒しする動きが強かったこと等により、**前年比数量で40%増、金額で51%増と過去最高額の162億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、今年の春節が昨年よりも10日ほど早かったことから、2月上旬まで春節需要があった昨年に比べ、主に台湾向け輸出が減少したこと、昨年春先の凍霜害の影響で収穫量が減少したため、輸出が減少したこと等により、**前年同期比数量で42%減、金額で30%減の46.6億円**となった。



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ りんごの国・地域別内訳 2021年

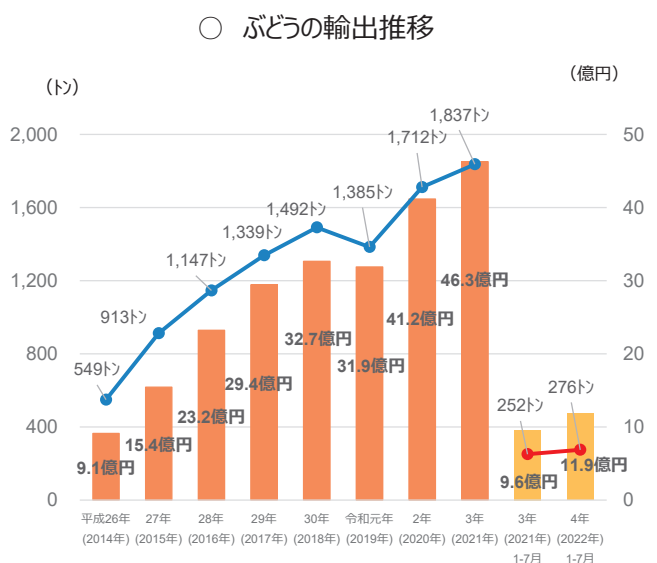
	国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1	台湾	118.3億円 (27,194トン)	66.7%	72.9%
2	香港	35.0億円 (8,706トン)	21.0%	21.6%
3	タイ	4.0億円 (920トン)	30.8%	2.5%
4	ベトナム	2.4億円 (395トン)	21.5%	1.5%
5	シンガポール	1.4億円 (339トン)	8.1%	0.9%
-	その他	1.0億円 (174トン)	29.7%	0.6%
-	世界	162.1億円 (37,729トン)	51.5%	100.0%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

10

ぶどうの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、主力品種においては、輸出向けの商品が天候に恵まれ良品質なものが潤沢であったこと等により、**前年比数量で7%増、金額で12%増と過去最高額の46.3億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、ぶどうの出荷開始時期である5月以降、食味が良い日本産シャインマスカットの引き合いが強かったことに加え、円安により取引が活発だったため、主に香港、台湾向けの輸出が増加したこと等により、**前年同期比数量で10%増、金額で24%増の11.9億円**となった。



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ ぶどうの国・地域別内訳 2021年

	国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1	台湾	21.6億円 (896トン)	25.2%	46.7%
2	香港	21.1億円 (840トン)	0.8%	45.7%
3	シンガポール	1.6億円 (52トン)	1.7%	3.5%
4	タイ	1.0億円 (24トン)	30.8%	2.2%
5	マレーシア	0.5億円 (14トン)	59.7%	1.0%
-	その他	0.4億円 (11トン)	47.3%	1.0%
-	世界	46.3億円 (1,837トン)	12.4%	100.0%

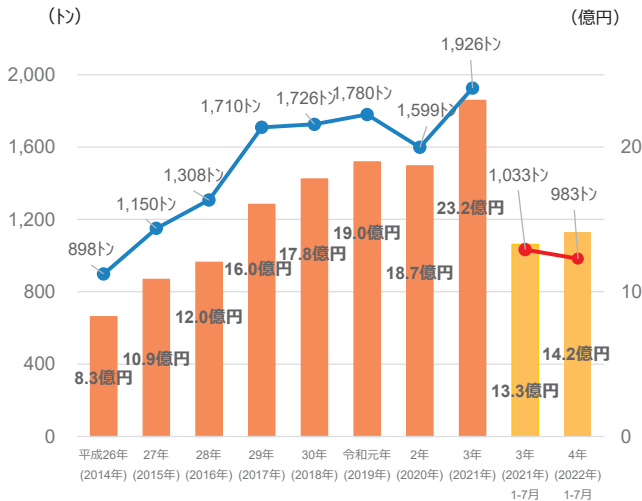
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

11

ももの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、出荷始めの4月から8月まで良好な生育状況と香港等からの引き合いが続いたこと等により、**前年比数量で20%増、金額で24%増と過去最高額の23.2億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、出荷開始時期の5月以降、食味が良い日本産の引き合いが強かったものの、主な出荷時期である7月期では、上旬まで小玉傾向だったため、大玉が好まれる輸出向けの動きが鈍かったこと等により、**前年同期比数量で5%減、金額で7%増の14.2億円**となった。

○ ももの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ ももの国・地域別内訳 2021年

国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1 香港	17.2億円 (1,461トン)	21.7%	74.1%
2 台湾	4.9億円 (388トン)	38.2%	21.0%
3 シンガポール	0.8億円 (46トン)	14.2%	3.2%
4 タイ	0.2億円 (11トン)	▲21.2%	0.8%
5 マレーシア	0.1億円 (14トン)	17.5%	0.6%
- その他	0.1億円 (6トン)	140.2%	0.3%
- 世界	23.2億円 (1,926トン)	24.1%	100.0%

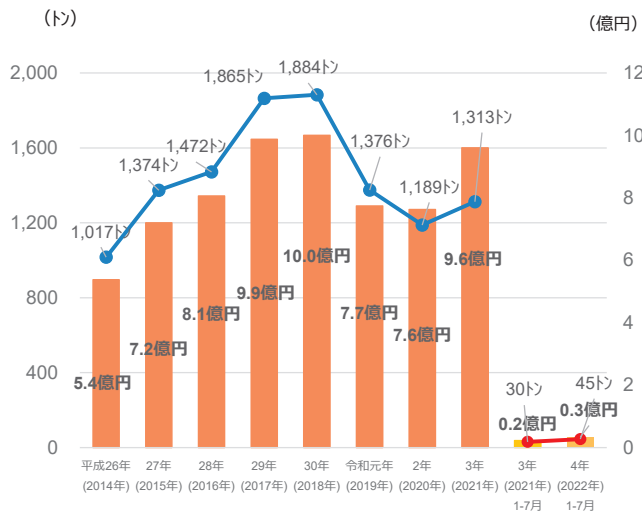
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

12

なしの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、昨年より10日ほど早い中秋節（9月21日）に向けて香港からの引き合いが強かったこと等により、全体で**前年比数量で11%増、金額で26%増の9.6億円**となった。
- 2022年1-7月期は、主な出荷時期ではない。
- 主な輸出先は香港、台湾で、全体の約9割を占める。

○ なしの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ なしの国・地域別内訳 2021年

国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1 香港	6.6億円 (912トン)	26.4%	69.1%
2 台湾	2.0億円 (242トン)	30.7%	20.5%
3 タイ	0.3億円 (52トン)	94.2%	3.5%
4 ベトナム	0.2億円 (31トン)	▲46.6%	1.9%
5 アメリカ	0.2億円 (27トン)	11.3%	1.7%
- その他	0.3億円 (49トン)	55.1%	3.2%
- 世界	9.6億円 (1,313トン)	25.9%	100.0%

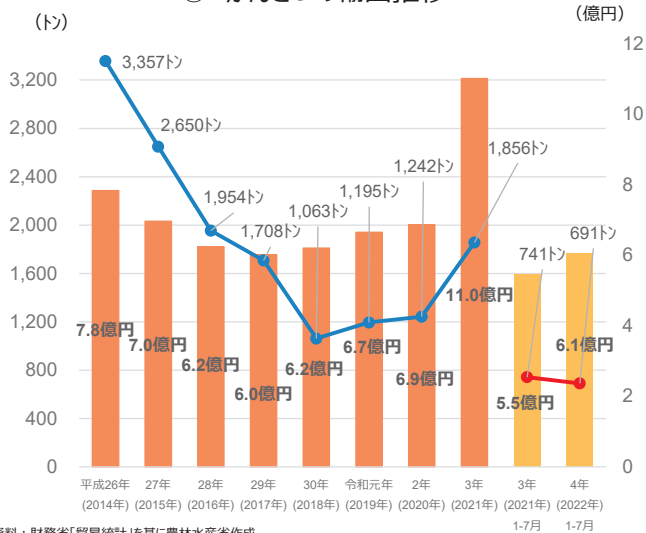
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

13

かんきつの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2021年の春節時期が例年より遅い時期（2月12日）で需要が2月上旬まで続いたこと、2022年の春節（2月1日）に向けてコンテナ船遅延を懸念し輸出を前倒しする動きが強かったこと等により、**前年比数量で49%増、金額で60%増と過去最高額の11億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、今年の春節が昨年よりも10日ほど早かったことから、2月上旬まで春節需要があった昨年に比べ、1-2月期に主に台湾向けの輸出が減少した一方で、4月以降は円安が単価高を吸収し輸出が増加したこと等により、**前年同期比数量で7%減、金額で11%増の6.1億円**となった。

○ かんきつの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ かんきつの国・地域別内訳 2021年

国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1 香港	4.9億円(793トン)	49.5%	44.2%
2 台湾	4.0億円(574トン)	75.8%	36.0%
3 シンガポール	0.9億円(140トン)	60.4%	8.0%
4 カナダ	0.5億円(209トン)	121.3%	4.8%
5 マレーシア	0.4億円(75トン)	413.1%	3.2%
6 ニュージーランド	0.1億円(29トン)	41.2%	0.9%
7 カンボジア	0.1億円(5トン)	798.3%	0.9%
- その他	0.2億円(31トン)	▲46.2%	2.1%
- 世界	11.0億円(1,856トン)	60.3%	100.0%

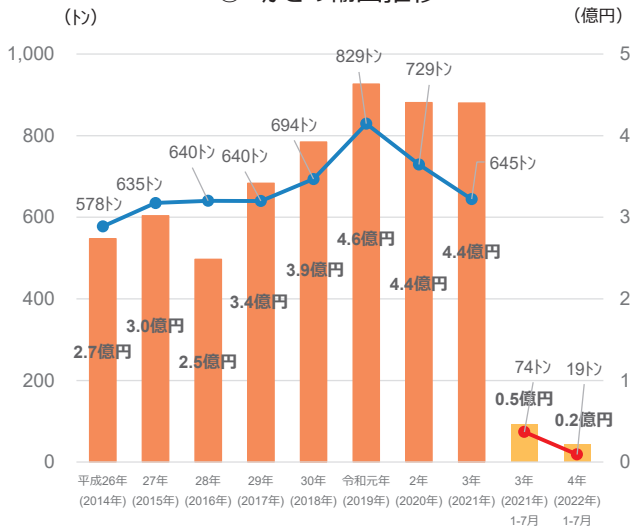
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注1：かんきつにはうしゆのみかん、中晩柑、香酸かんきつ等を含む。
注2：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

14

かきの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、春先の凍霜害や8～9月の曇雨天等の影響による生育不良が起こり、輸出向けの良品質なものが十分に確保できなかったこと等により、**前年比数量で12%減、金額で0.1%減の4.4億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、昨年8～9月の曇雨天等の影響による生育不良で、貯蔵向けの棚持ちがよい良品質なものが不足し、出荷時期である1月期の輸出が減少したこと等により、**前年比数量で75%減、金額で53%減の0.2億円**となった。

○ かきの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：加工品を含まない生鮮の数値を算出。

○ かきの国・地域別内訳 2021年

国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1 香港	2.3億円(359トン)	▲3.5%	52.6%
2 タイ	1.6億円(217トン)	▲4.2%	35.5%
3 シンガポール	0.3億円(37トン)	30.3%	6.3%
4 台湾	0.1億円(15トン)	28.7%	2.4%
5 アメリカ	0.1億円(10トン)	121.3%	1.8%
- その他	0.1億円(7トン)	30.4%	1.4%
- 世界	4.4億円(645トン)	▲0.1%	100.0%

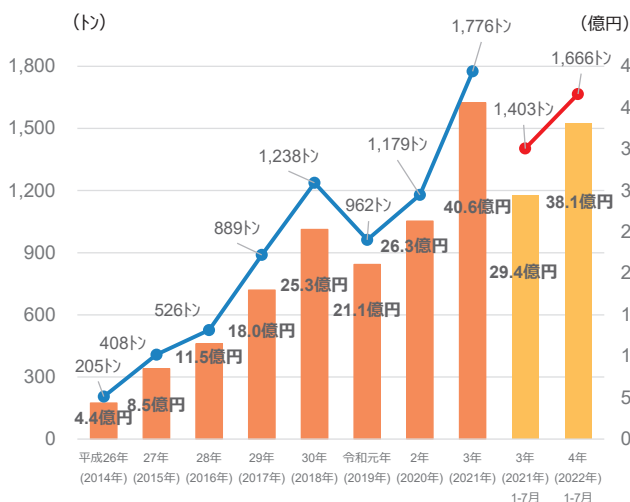
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

15

いちごの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2021年の春節時期が例年より遅い時期（2月12日）で、需要が2月上旬まで続いたこと、春節以降も香港等の巣ごもり需要からの引き合いが続いたこと等により、**前年比数量で51%増、金額で54%増と過去最高額の40.6億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、2022年の春節（2月1日）需要が1月末まで続いたこと、巣ごもり需要として、日本産いちごが人気となり、香港や台湾を中心に輸出が増加したこと等により、**前年比数量で19%増、金額で30%増の38.1億円**となった。

○ いちごの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ いちごの国・地域別内訳 2021年

	国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1	香港	29.4億円 (1,343トン)	46.6%	72.4%
2	台湾	5.4億円 (236トン)	158.7%	13.4%
3	シンガポール	2.2億円 (95トン)	19.7%	5.5%
4	タイ	2.1億円 (57トン)	34.5%	5.2%
5	マレーシア	0.7億円 (23トン)	1049.1%	1.6%
-	その他	0.8億円 (23トン)	19.7%	1.9%
-	世界	40.6億円 (1,776トン)	54.4%	100.0%

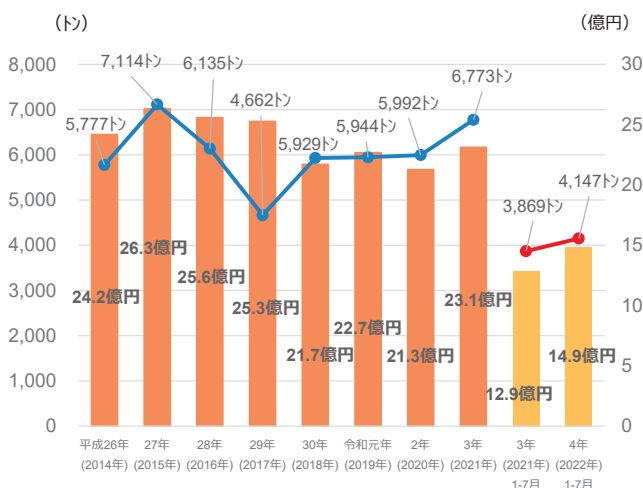
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

16

ながいもの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、北海道の2020年産ながいもの生育状況が良好で、輸出向けの太物で良品質なものが潤沢であったこと、台湾等からの引き合いが強かったこと等により、**前年比数量で13%増、金額で9%増の23.1億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、昨年に比べてコンテナが確保できたことや、輸出先の経済活動再開に伴い需要が回復したこと等により、**前年同期比数量で7%増、金額で16%増の14.9億円**となった。

○ ながいもの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ ながいもの国・地域別内訳 2021年

	国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1	台湾	11.4億円 (3,481トン)	21.7%	49.1%
2	アメリカ	7.6億円 (2,146トン)	▲ 6.7%	32.8%
3	シンガポール	2.4億円 (703トン)	▲ 6.5%	10.2%
4	香港	1.3億円 (325トン)	42.6%	5.5%
5	カナダ	0.4億円 (95トン)	60.7%	1.9%
-	その他	0.1億円 (24トン)	▲ 4.6%	0.5%
-	世界	23.1億円 (6,773トン)	8.7%	100.0%

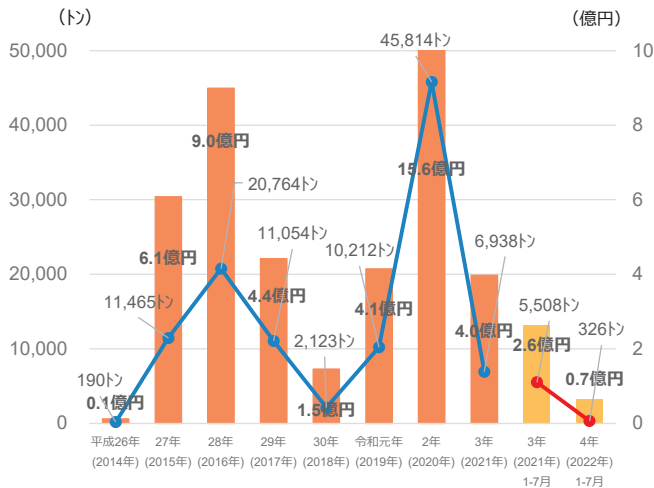
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

17

たまねぎの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2019年北海道産たまねぎと2020年産春たまねぎがいずれも豊作で輸出が多かった2020年に対し、主要産地である北海道の高温干ばつによる生育不良で出荷量が例年より少なかったこと等により、**前年比数量85%減、金額は75%減の4.0億円**となった。
- **2022年1-7月期**は、主要産地における生育不良等の影響で国内向けたまねぎに不足感があり、輸出向けの動きが鈍く、輸出が減少したこと等により、**前年同期比数量で94%減、金額で75%減の0.7億円**となった。

○ たまねぎの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ たまねぎの国・地域別内訳 2021年

国名	輸出額 (量)	輸出額増減率	輸出額構成比
1 韓国	1.4億円 (3,186トン)	▲ 19.9%	36.2%
2 台湾	1.2億円 (2,607トン)	▲ 90.3%	30.6%
3 香港	1.0億円 (694トン)	19.0%	24.4%
4 シンガポール	0.2億円 (276トン)	▲ 12.2%	6.2%
5 ロシア	0.1億円 (98トン)	▲ 64.2%	1.4%
- その他	0.0億円 (77トン)	16.8%	1.2%
- 世界	4.0億円 (6,938トン)	▲ 74.6%	100.0%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

18

青果物の輸出強化戦略

19

青果物の輸出強化戦略

- 農林水産物・食品の更なる輸出拡大に向けて、「食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月31日閣議決定）において、**2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とする輸出額目標を設定。**
- 2021年に輸出額1兆円を達成**したところであり、引き続き「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」(2022年5月改訂)に基づき、目標達成に向け、政府一体となってあらゆる施策を講じることとしている。
- 青果物では、**りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品、いちご、かんしょ・かんしょ加工品、その他野菜を輸出重点品目と選定するほか、輸出に取り組む産地をリスト化し、輸出産地の形成に必要な施設整備等を重点的に支援。**
- さらに、青果物の生産から販売に至る関係事業者を構成員とする「日本青果物輸出促進協議会」をオールジャパンでの輸出拡大の中心的な役割を担う「品目団体」として位置付け。

【輸出産地のリスト化（令和4年5月時点）】

- 青果物の重点品目の輸出に取り組む輸出産地
 - りんご（8産地（18事業主体））
 - ぶどう（6産地（15事業主体））
 - もも（6産地（12事業主体））
 - かんきつ（15産地（19事業主体））
 - かき・かき加工品（10産地（11事業主体））
 - いちご（13産地（18事業主体））
 - かんしょ・かんしょ加工品・その他野菜（38産地（48事業主体））

【輸出の取組に向けた支援】

<ソフト的支援>

- グローバル産地づくり推進事業
 - ・ 輸出事業計画の策定・実行等の輸出産地の形成支援
- 青果物輸出産地体制強化加速化事業
 - ・ 輸出先国の規制等に対応した生産・流通体制強化等の支援
- インポートトレランス申請支援事業
 - ・ 輸出先国・地域での残留農薬基準値設定の申請支援

<施設等整備支援>

- 農産物等輸出拡大施設整備事業
 - ・ 国産農産物等の輸出拡大に必要な集出荷貯蔵施設等の整備支援

【果実等の品目団体と取組】



■ 日本青果物輸出促進協議会（2015年5月設立）

※ J A、県輸出協議会、卸売会社、輸出業者等の69団体により構成（R4.8.19現在）

- 輸出先国が求めるスペックの安定供給に向けた産地連携体制の形成
- JETRO、JFOODOとの連携によるマーケティング、プロモーション活動
- 国内産地と、輸出先国の実需者等を繋ぐ輸出事業者等との連携
- 統一マークの活用等によるジャパンブランド形成、認知・浸透に向けた活動

【輸出先国等の規制への対応】

■ 残留農薬基準への対応

- インポートトレランス申請支援事業による支援件数
 - 75件（平成27年度以降）
 - （台湾：67件、米国：7件、カナダ：1件）

■ 輸出解禁等に向けた植物検疫協議 ※直近の動向

- インド向けりんごの輸出解禁（2022年3月）
- ベトナム向けうんしゅうみかんの輸出解禁（2021年10月）
- 米国向けメロンの輸出解禁（2021年11月）

20

青果物の輸出拡大に向けた規制緩和にかかる取組

青果物を輸出するためには、植物検疫条件や残留農薬基準などの輸出先国・地域の規制を踏まえ、取り組む必要。このため、

- ・ **植物検疫上日本産青果物の輸入を認めていない国・地域への輸出解禁の要請**や条件付き輸入を認めている国・地域への**輸入条件緩和の要請**と検疫交渉
- ・ 青果物の残留農薬について、**インポートトレランス申請の支援**
- ・ その他の輸出上の制約となる**規制の緩和**に向けた相手国・地域への**要請及び交渉**を行って円滑な輸出に取り組める環境づくりを支援している。

検疫解禁等の要請

○最近解禁が行われた事案及び植物検疫条件

【りんご】インド（2022年3月）

- ・登録生産園地での栽培 ・登録選果こん包施設での選果こん包
- ・消毒処理の実施 ・インド側検査官による査察 ・輸出検査の実施

【うんしゅうみかん】ベトナム（2021年10月）

- ・登録生産園地での栽培 ・登録生産園地でのミカンバエ無発生確認
- ・ベトナム側植物検疫当局による登録生産園地の確認
- ・登録選果こん包施設での選果こん包 ・植物防疫所による輸出検査

【メロン】米国（2021年11月）

- ・輸出検査でスイカ緑斑モザイクウイルスの付着がないことを確認

○最近条件緩和が行われた事案（例）

【なし】米国

- 全ての都道府県(※)のなしが解禁・品種制限の撤廃。（2020年4月）
- (※)沖縄県及び一部の離島を除く。

（参考）二国間協議により検疫条件が定められている品目
植物防疫所HP

<http://www.maff.go.jp/pps/j/search/bilateral.html>

インポートトレランス申請

申請に必要なデータ作成支援

平成27年度補正予算	26件	（台湾25件、カナダ1件）
28年度補正予算	18件	（台湾16件、米国2件）
30年度予算	12件	（台湾10件、米国2件）
令和元年度予算	12件	（台湾9件、米国3件）
令和2年度予算	9件	（台湾8件、米国1件）
令和3年度(R2補正含む)	13件	（台湾10件、米国3件）

※支援した延べ件数

<品目別の支援件数>

品目	支援件数	品目	支援件数
りんご	6	かき	9
ぶどう	12	いちご	13
もも	5	その他	23
かんきつ	7	合計	75

（参考）諸外国における残留農薬基準値に関する情報

https://www.maff.go.jp/shokusan/export/zannou_kisei.html

21

改正輸出促進法の概要

22

農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律等の一部を改正する法律のポイント

1 品目団体の法制化

- ・ オールジャパンで輸出先国・地域のニーズ調査やブランディング等に取り組み、市場の開拓等を行う法人を、申請に基づき認定する仕組みを創設

2 輸出事業計画の支援策の拡充

- ・ 輸出事業計画の記載事項として、輸出事業に必要な施設の整備に関する事項を追加
- ・ 輸出事業計画の認定を受けた者に対する日本政策金融公庫の業務の特例として、輸出事業に必要な資金の貸付けを措置（資金使途の追加、償還期限の延長）
※ 輸出事業計画に基づき行う施設等の整備に対する税制上（所得税・法人税）の特例を新設

3 民間検査機関による輸出証明書の発行

- ・ 国の登録を受けた民間検査機関が輸出証明書の発行を行える仕組みを創設

4 有機JAS制度の改善（JAS法改正）

- ・ JAS法を改正し、JAS規格の対象に有機酒類を追加
- ・ その他輸出促進に必要な事項を措置

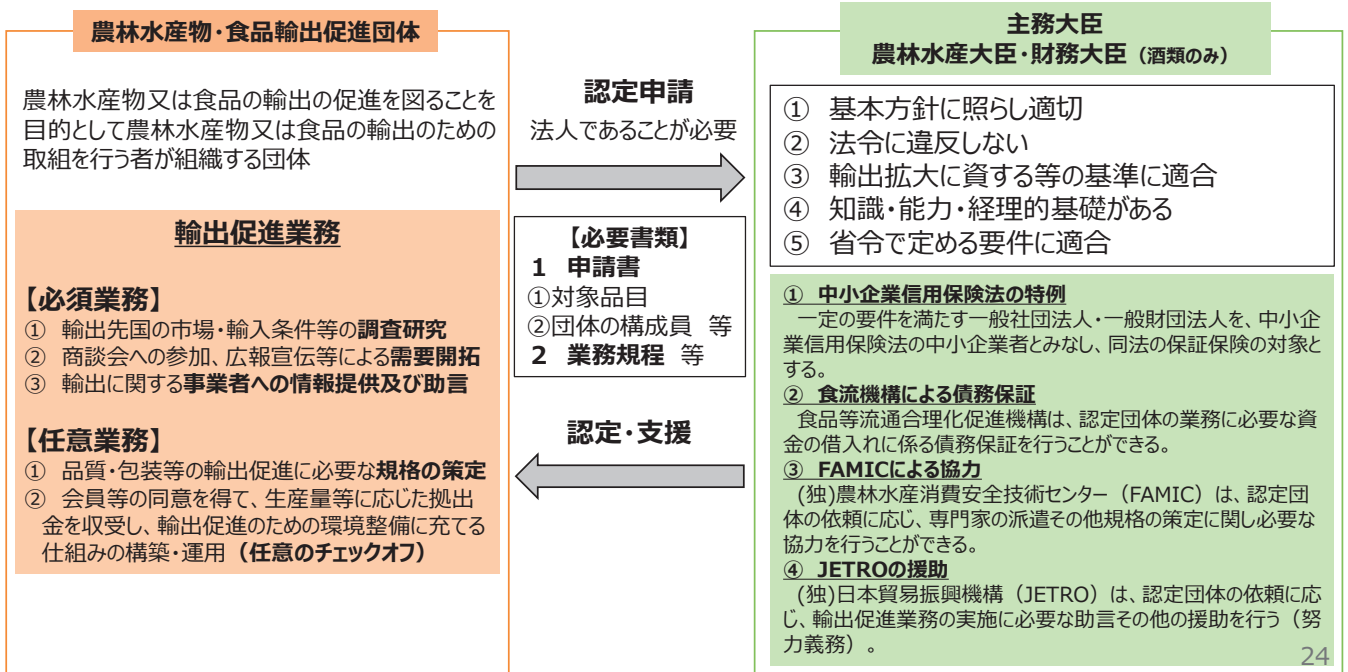
5 施行日

- ・ 公布日から起算して6月を超えない範囲内で政令で定める日（令和4年10月1日）

23

農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）認定制度

- 輸出品目ごとに、生産から販売に至る関係者が連携し、輸出の促進を図る法人を、法人からの申請に基づき、国が「認定農林水産物・食品輸出促進団体」（認定輸出促進団体）として認定する制度を創設。
- 認定輸出促進団体は、輸出先国でのニーズ調査等の調査研究や商談会参加等の需要開拓、輸出事業者に対する情報提供を行うほか、必要に応じて輸出促進のための規格の策定や任意のチェックオフの業務を行う。



認定農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）の取組概要

個々の産地・事業者では取り組む負担が大きい、非競争分野の輸出促進活動（市場調査、ジャパンプランドによる共同プロモーション）を品目団体がを行い、産地や事業者の輸出拡大の取組を下支え。

【産地・事業者の課題例】

- 各国で規制内容が異なる上に変化するので、**個社で最新情報を把握し続けることは困難。**
- 個社でPRを行うには限界があるため、**事業者が集まって現地で効率良く各社がPRを行う機会が欲しい。**
- 海外では日本の地方の名称は知られておらず、**日本産であることをブランド化した方が良い。**
- 輸送時のカビ発生等による**ロスが業界共通の問題。抑制に向けた技術開発が必要。**
- ロット確保が出来ず逃している販売機会がある。産地間調整の機会が必要**
- 様々な課題が次々と出てきて、**それぞれに必要な対応が自社では不明なことが多い。具体的な対応策の情報を得る場があるとありがたい。**

品目団体へ集約

品目団体

生産者や事業者が直面する課題の解決に向け、オールジャパンで取り組むべき活動を実施。

【必須業務】

- 輸出先国の市場・輸入条件（規制）等の**調査・研究**
- 商談会への参加、広報宣伝等による**需要開拓**
(例)見本市へオールジャパンで出展、バイヤー向け商談会・セミナー開催、ジャパンプランド広報の実施
- 輸出に関する**事業者への情報提供・助言**
(例)輸出専門家による相談窓口を設置

【任意業務】

- 輸出促進に必要な包材・品質等の**規格の策定**
- 輸出のための取組を行う事業者から拠出金を収受し、輸出促進の環境整備に充てる仕組みづくり（**任意のチェックオフ**）



バイヤーとの商談



店頭プロモーション

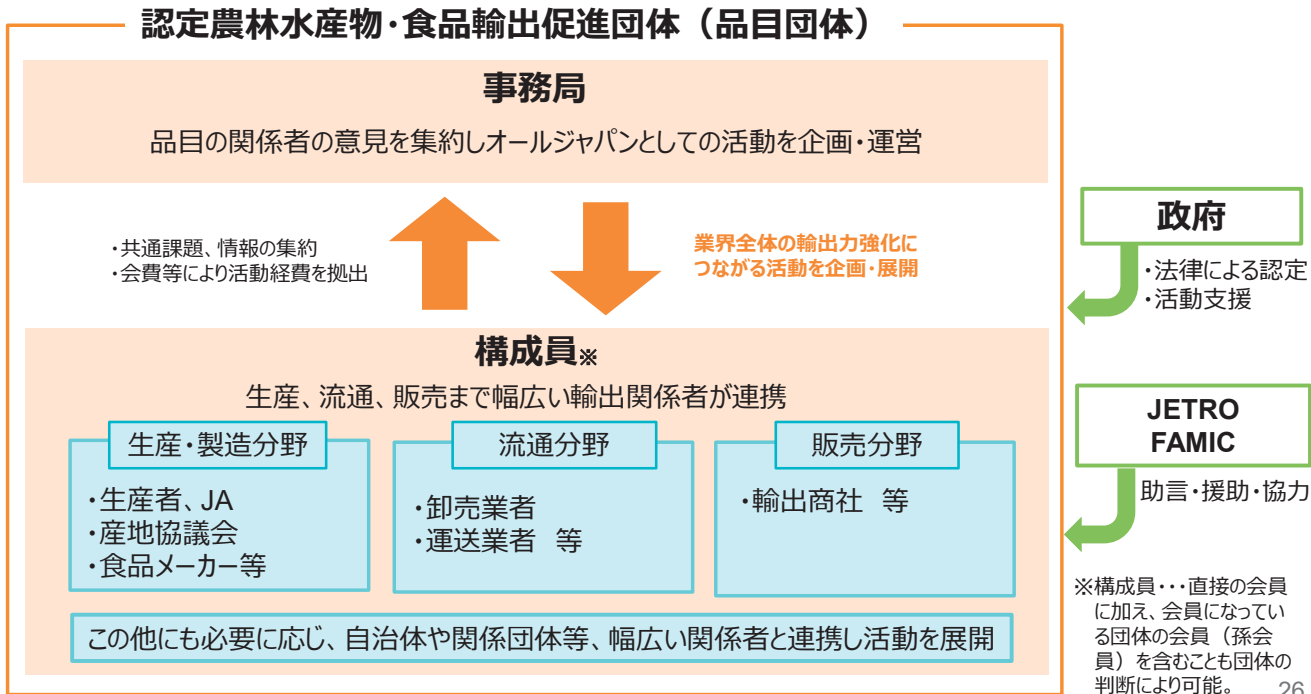


輸送規格を作成し荷潰れを防止

認定農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）の体制イメージ

- 品目の生産から販売までの関係者が連携し、オールジャパンで輸出拡大活動に取り組む。関係者は団体に加入することで、団体から情報提供を受けたり、団体が実施する販促活動に参加するなどのメリットを享受。
- 国、JETRO等が団体の取組を支援。

<認定団体の体制イメージ>



マーケットイン輸出ビジネス拡大支援事業のうち 品目団体輸出力強化支援事業

【令和4年度予算概算決定額 907（-）百万円】
【令和3年度補正予算額 4,100百万円】

<対策のポイント>

品目団体が輸出重点品目についてオールジャパンで行う海外販路開拓・市場調査等の輸出力強化に向けた取組を支援します。

<事業目標>

農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

<事業の内容>	<事業イメージ>																							
<p>輸出重点品目（牛肉、コメ、りんご、ぶどう、茶、かんしょ、製材、ぶり、ホテル等）について、品目団体※が自ら作成した輸出拡大計画に沿って行う、業界関係者全体の輸出力の強化につながる取組を、以下のメニューにより支援します。</p> <p>※ 生産から販売まで輸出に関する業界の関係者を広く含み、オールジャパンで輸出拡大に取り組む全国団体</p> <p><支援メニュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 輸出ターゲット国の市場調査・規制調査 海外におけるジャパンブランドの確立 業界関係者共通の輸出に関する課題解決に向けた実証等 海外における販路開拓活動 輸出促進のための規格の策定・普及 国内事業者の水平連携に向けた体制整備 輸出手続きや商談等の専門家による支援 新規輸出国開拓に向けた調査及び輸送試験 <p><事業の流れ></p> <p>国 → 定額、1/2 → 民間団体等</p>	<table border="1"> <tr> <td>①-例</td> <td>・ターゲット市場における木材製品の市場動向やニーズ、高耐久木材や木質建材などの製品規格・流通規制に関する調査</td> <td rowspan="8"> <p>現地でのPR活動</p> <p>包材の規格化（イメージ）</p> <p>バイヤー向けセミナー・商談会</p> </td> </tr> <tr> <td>②-例</td> <td>・日本産米の差別化に向けた他国産米との比較調査及びPR活動</td> </tr> <tr> <td>③-例</td> <td>・多言語対応食肉ラベルシステムの開発</td> </tr> <tr> <td>④-例</td> <td>・かんしょの輸送時の腐敗防止技術の実証・普及</td> </tr> <tr> <td>⑤-例</td> <td>・輸出先国の製品安全規格を満たす焼き芋機の導入実証</td> </tr> <tr> <td>⑥-例</td> <td>・ブローカー設置、バイヤー向けセミナーの開催、品目専門見本市への出展、海外バイヤーの招聘等</td> </tr> <tr> <td>⑦-例</td> <td>・輸送資材や温度管理等、相手国ニーズへの対応（品質保持等）に必要な規格やマニュアル等の策定に向けた検討</td> </tr> <tr> <td>⑧-例</td> <td>・策定した規格やマニュアル等の普及に向けた研修の実施や実装に必要な認証取得等への支援</td> </tr> <tr> <td>①-例</td> <td>・リレー出荷や大ロット確保に向けた、出荷時期・量・有機対応等の産地データベースの構築等</td> </tr> <tr> <td>②-例</td> <td>・青果物輸出促進コーディネーターを設置し、産地の課題に対応可能な専門家と産地のマッチングによる課題解決を支援</td> </tr> <tr> <td>③-例</td> <td>・鮮度保持や輸出規則対応の確認のための輸送実証</td> </tr> </table>	①-例	・ターゲット市場における木材製品の市場動向やニーズ、高耐久木材や木質建材などの 製品規格・流通規制 に関する調査	<p>現地でのPR活動</p> <p>包材の規格化（イメージ）</p> <p>バイヤー向けセミナー・商談会</p>	②-例	・ 日本産米の差別化 に向けた他国産米との比較調査及びPR活動	③-例	・ 多言語対応食肉ラベルシステム の開発	④-例	・かんしょの輸送時の 腐敗防止技術の実証・普及	⑤-例	・輸出先国の 製品安全規格を満たす焼き芋機 の導入実証	⑥-例	・ブローカー設置、 バイヤー向けセミナー の開催、 品目専門見本市 への出展、海外バイヤーの招聘等	⑦-例	・ 輸送資材や温度管理 等、相手国ニーズへの対応（品質保持等）に必要な 規格やマニュアル等の策定 に向けた検討	⑧-例	・策定した規格やマニュアル等の普及に向けた 研修の実施 や実装に必要な 認証取得等への支援	①-例	・リレー出荷や大ロット確保に向けた、出荷時期・量・有機対応等の 産地データベースの構築 等	②-例	・ 青果物輸出促進コーディネーター を設置し、産地の課題に対応可能な専門家と産地のマッチングによる課題解決を支援	③-例	・鮮度保持や輸出規則対応の確認のための 輸送実証
①-例	・ターゲット市場における木材製品の市場動向やニーズ、高耐久木材や木質建材などの 製品規格・流通規制 に関する調査	<p>現地でのPR活動</p> <p>包材の規格化（イメージ）</p> <p>バイヤー向けセミナー・商談会</p>																						
②-例	・ 日本産米の差別化 に向けた他国産米との比較調査及びPR活動																							
③-例	・ 多言語対応食肉ラベルシステム の開発																							
④-例	・かんしょの輸送時の 腐敗防止技術の実証・普及																							
⑤-例	・輸出先国の 製品安全規格を満たす焼き芋機 の導入実証																							
⑥-例	・ブローカー設置、 バイヤー向けセミナー の開催、 品目専門見本市 への出展、海外バイヤーの招聘等																							
⑦-例	・ 輸送資材や温度管理 等、相手国ニーズへの対応（品質保持等）に必要な 規格やマニュアル等の策定 に向けた検討																							
⑧-例	・策定した規格やマニュアル等の普及に向けた 研修の実施 や実装に必要な 認証取得等への支援																							
①-例	・リレー出荷や大ロット確保に向けた、出荷時期・量・有機対応等の 産地データベースの構築 等																							
②-例	・ 青果物輸出促進コーディネーター を設置し、産地の課題に対応可能な専門家と産地のマッチングによる課題解決を支援																							
③-例	・鮮度保持や輸出規則対応の確認のための 輸送実証																							

03-6744-1779) 27

(参考) 品目団体輸出力強化支援事業等の交付決定者・交付候補者

令和3年度補正予算「品目団体輸出力強化緊急支援事業」、令和4年度当初予算「品目団体輸出力強化支援事業」の交付決定者・交付候補者は以下の14の団体（令和4年5月末時点）。これらの団体が認定団体を目指していく中心的な役割を担うことが期待される。

団体名

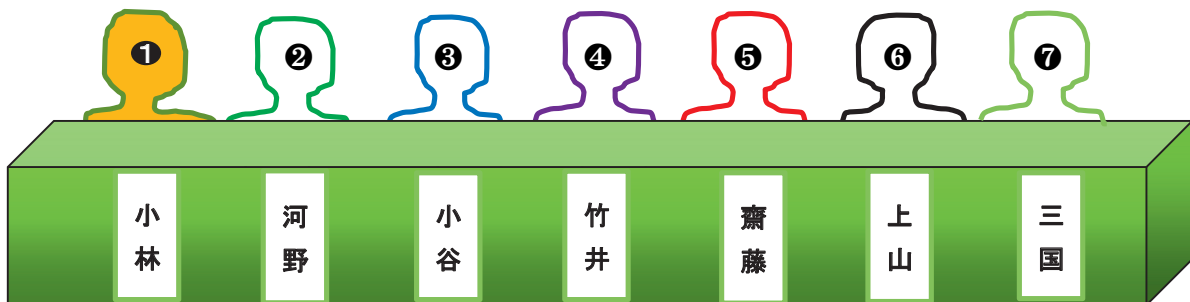
日本畜産物輸出促進協議会	日本養殖魚類輸出推進協会
日本青果物輸出促進協議会	(一社) 日本真珠振興会
全国花き輸出拡大協議会	(一社) 全日本菓子輸出促進協議会
日本茶輸出促進協議会	全日本カレー工業協同組合
(一社) 全日本コム・コム関連食品輸出促進協議会	全国味噌工業協同組合連合会
(一社) 日本木材輸出振興協会	全国醤油工業協同組合連合会
日本ほたて貝輸出振興協会	日本酒造組合中央会

『質疑応答』

青果物の物流・流通に関連したセミナー

【質疑応答】

- | | |
|----------------------------------|--------------|
| ① 流通合理化検討委員会委員長(石川県立大学 教授) | 小林 茂典 氏【司会者】 |
| ② 成田市経済部 卸売市場長 | 河野 雅祐 氏 |
| ③ シティ青果成田市場株式会社 代表取締役社長 | 小谷 洋二 氏 |
| ④ NAX JAPAN株式会社 専務取締役 | 竹井 浩人 氏 |
| ⑤ 豊通食料株式会社 農産食品部 生鮮水煮グループリーダー | 齋藤 健 氏 |
| ⑥ 旭化成株式会社 食農プロジェクトチーム プロジェクト長 | 上山 健治 氏 |
| ⑦ 農林水産省 農産局 園芸作物課 園芸流通加工対策室 課長補佐 | 三國 知 氏 |



【メ モ】

『質 疑 応 答』

青果物の物流・流通に関連したセミナー

『質 疑 応 答』

青果物の物流・流通に関連したセミナー

『質 疑 応 答』

青果物の物流・流通に関連したセミナー
